SONY

2-669-084-**05** (1)

取扱説明書・保証書

MZ-RH1

Hi-MD Walkman®

Portable MD Recorder

Hi-MD AUDIO

Net MD

MDLP

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6~9ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

1年に一度は、ACコードのプラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターやACコードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店、ソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら、液漏れしたら

➡

1. **電源を切る。**
2. **ACコードをコンセントから抜く/パソコンからUSBケーブルを抜く。**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する。**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。（お問い合わせ先　（社）私的録音補償金管理協会　Tel.03-5353-0336）

ためし録り

録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをして、正常に記録されていることを確認してください。

録音内容の補償はできません

万一、本製品、記録メディア、パソコンなどの不具合により録音がされなかった場合、音楽データなどの記録内容の補償については、ご容赦ください。

商標について

- "ウォークマン"、"WALKMAN"、"WALKMAN" ロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- SonicStageはソニー株式会社の登録商標です。
- MD Simple Burner、OpenMG、Hi-MD、Net MD、ATRAC、ATRAC3、ATRAC3plusおよびそれぞれのロゴはソニー株式会社の商標です。
- MicrosoftおよびWindows、Windows NT、Windows Mediaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- IBMおよびPC/ATは米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
- MacintoshはApple Computer, Inc.の商標です。
- PentiumはIntel Corporationの商標または登録商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般的に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。
- CD and music-related data from Gracenote, Inc., copyright © 2000-2004 Gracenote. Gracenote CDDB® Client Software, copyright 2000-2004 Gracenote. This product and service may practice one or more of the following U.S. Patents: #5,987,525; #6,061,680; #6,154,773, #6,161,132, #6,230,192, #6,230,207, #6,240,459, #6,330,593, and other patents issued or pending. Services supplied and/or device manufactured under license for following Open Globe, Inc. United States Patent 6,304,523.
  Gracenote is a registered trademarks of Gracenote. The Gracenote logo and logotype, and the "Powered by Gracenote" logo are trademarks of Gracenote.

付属のSonicStage/MD Simple Burnerソフトウェアについて

- 付属のソフトウェアは、この取扱説明書の画面と一部違うところがある場合があります。
- この取扱説明書は、お客様がWindowsの基本操作に習熟していることを前提にしています。パソコンの操作については、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

- 権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- このソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り換えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
- このソフトウェアは指定された機器以外には使用できません。
- このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
- このソフトウェア上で表示できる言語は、パソコンにインストールされているOSによって異なります。
  — 言語によっては、このソフトウェア上で正しく表示できない場合があります。
  — ユーザー定義の文字や特殊な記号は表示されない場合があります。

目次

準備する

パソコンとつないで使う

録音する

再生する

編集する

メニューで設定する

困ったときは

その他

MD知っ得Q&A

警告

下記の注意を守らないと**火災・感電、**
または**大けが**の原因となります

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分にご注意ください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因になります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐにスイッチを切り、ACパワーアダプター、ACコード、USBケーブルを本機またはパソコンから外して、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

指定以外のACパワーアダプター、ACコード、USBケーブル、カーバッテリーコードなどを使わない

接触禁止

破裂・液漏れや過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

⚠警告

下記の注意を守らないと**火災・感電**、または**大けが**の原因となります

内部をむやみに開けない

本体および付属の機器は、むやみに開けたり改造したりすると火災や感電の原因となります。

ぬれた手でACパワーアダプターやACコード、USBケーブルをさわらない

感電の原因となることがあります。

本体やACパワーアダプター、ACコード、USBケーブルを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

火のそばや炎天下などで充電・放置しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

金属類と一緒に本体を携帯・保管しない

コイン、キーネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管すると、ショートし、発熱することがあります。

下記の注意を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるぐらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。とくに、MD、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

通電中のACパワーアダプターやACコード、USBケーブル、製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池
リチウムイオン（Li-ion）

⚠危険 充電式電池が液漏れしたとき

- 充電式電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない。
- 液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口（☞87ページ）またはソニーサービス窓口に相談する。
- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるため、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談する。
- 液が身体や衣服についたときは、やけどやけがの原因になるため、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

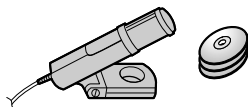
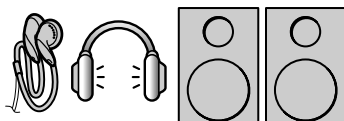
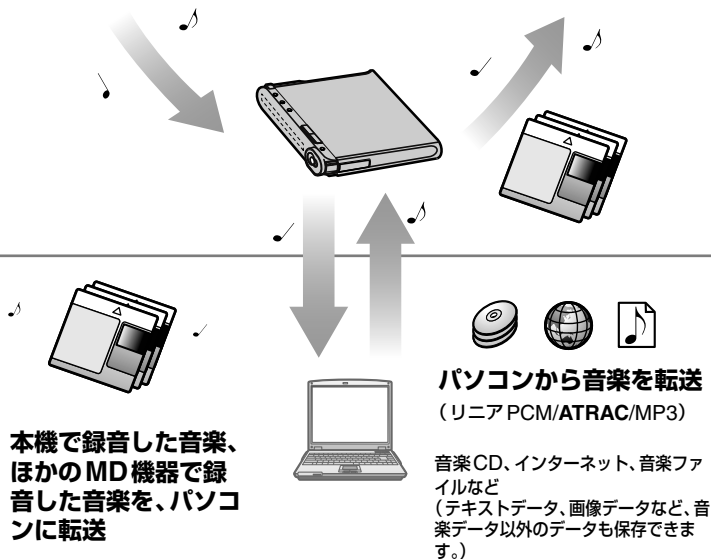
⚠危険 充電式電池について

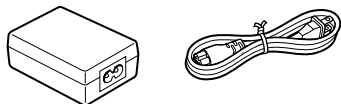
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 取扱説明書に記載された充電方法以外で充電しない。
- バッテリーキャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯、保管する。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の充電式電池以外は使用しない。
- 長時間使用しないときや、長時間ACパワーアダプターで使用するときは取りはずす。
- 液漏れした電池は使わない。

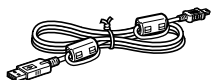
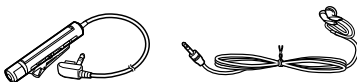
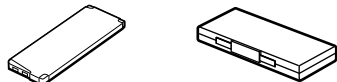
お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

こんなことができます

本機では音楽を録音／再生するだけでなく、付属のSonicStageソフトウェアを使ってパソコンから音楽を転送できるほか、本機やほかのMD機器で録音した音楽をパソコンに転送し、管理することができます。

付属品を確かめる

- ACパワーアダプター（100 ～ 240 V用）
- ACコード*

* 付属のACコードは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

- USBケーブル

- リモコン（漢字・カナ表示対応）
- ヘッドホン

- 充電式リチウムイオン電池 LIP-4WM
- 充電池ケース

- キャリングポーチ
- フェライトコア
- CD-ROM **（Windows: SonicStage/MD Simple Burner, Macintosh: Hi-MD Music Transfer for Mac）

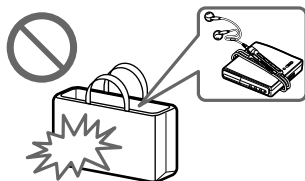
** 音楽CDプレーヤーで再生しないでください。Hi-MD Music Transfer for Macの使い方については、別紙をご覧ください。

- 取扱説明書・保証書（本書）
- 取扱説明書（Hi-MD Music Transfer for Mac用）
- ソニーご相談窓口のご案内
- カスタマー登録のお願い

ご注意

本機をお使いになるときは、キャビネットの変形や故障を防ぐために、次のことを必ずお守りください。

- 本機をズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない。

- 本体にリモコン/ヘッドホンを巻き付けたまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない。

付属のフェライトコアの使いかた

本機には付属のリモコン用、別売りステレオマイク用、別売りアナログコード用の3つのフェライトコアを付属しています。情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づき、周囲の機器への障害を防ぐためのものです。
本機をパソコンに接続して使うときは、次の手順でフェライトコアを付けてください。パソコンに接続しないで使うときには、付けなくても問題はありません。

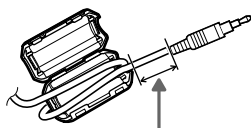
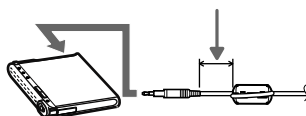
1 フェライトコアを開く。

付属リモコン、別売りマイク用：
ESD-SR-110

別売りアナログコード用：
2017-0930

次のページにつづく

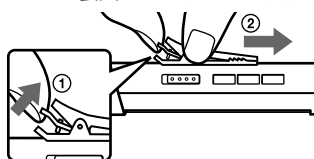
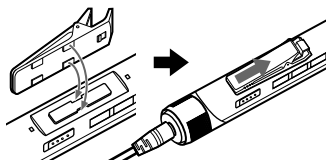
2 次のようにフェライトコアにコードを巻きつける。

- 付属のリモコンの場合：
  フェライトコアにコードを1回巻きつける、距離は約4cm
- 別売りステレオマイクの場合：
  フェライトコアにコードを2回巻き付ける、距離は約1cm
- 別売りアナログ接続コードの場合：
  フェライトコアにコードを1回巻き付ける、距離は約1cm

本機に接続する端子の根元からの距離（上記）

3 カチッと音がするまで押して、フェライトコアを閉じる。

海外で使うときは

付属のACパワーアダプターは100 ～ 240 Vの電源電圧に対応しています。コンセントの形にあったプラグアダプターをご用意いただければ、海外でもお使いいただけます。

リモコンのクリップの向きを変えるには

1 リモコン裏面のクリップをはずす。

2 左右反対に取り付け直す。

別売りアクセサリー

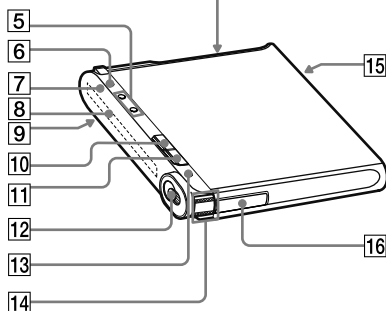
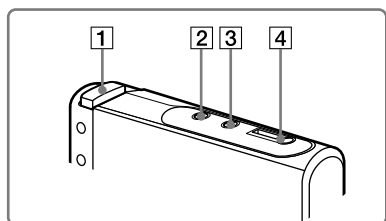
- 光デジタルケーブル
  光角型プラグ←→光ミニプラグ　POC-15AB
  光ミニプラグ←→光ミニプラグ　POC-15B
- 接続コード（アナログ）
  ステレオミニプラグ←→ピンプラグ（×2）
  RK-G129
  ステレオミニプラグ←→ステレオミニプラグ
  RK-G136
- ステレオマイクロホン ECM-MS907、ECM-719
- 漢字表示対応3行ジョグダイヤルリモコン RM-MC40ELK
- ステレオヘッドホン* MDR-EX51SP、MDR-EX71SL、MDR-E931SP、MDR-710SL、MDR-Z900HD
- アクティブスピーカー SRS-Z510/Z30など
- ミニディスク（生ディスク）ESシリーズ
- Hi-MD規格専用1GBディスク HMD1GA
- リチウムイオン充電池 LIP-4WM
- Hi-MDウォークマン専用メモリーカードリーダー MCMD-R1

* ヘッドホンは、ステレオミニプラグのものをお求めください。マイクロプラグのものは使えません。

下記の機種は、本機では使えません。

- ロータリーコマンダー RM-WMC1
- MDラベルプリンター MZP-1
- ICメモリー・リピートラーニング・MDコントローラー RPT-M1

各部のなまえ

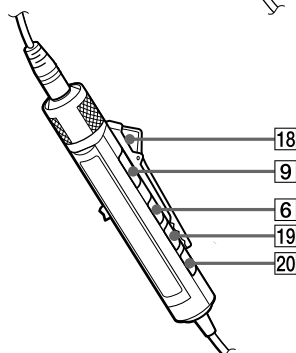
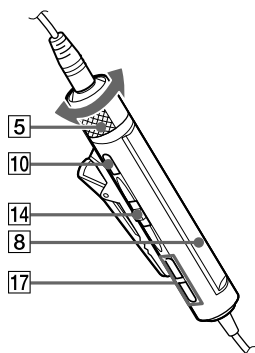
本体

リモコン

1 OPENボタン（☞32、39ページ）

2 LINE IN (OPT)ジャック（☞38ページ）

3 MIC (PLUG IN POWER)*ジャック（☞32ページ）

4 ♫（ヘッドホン）/LINE OUTジャック（☞39、58ページ）

5 本体：
VOL＋*/－ボタン（☞39、60ページ）
リモコン：
VOL＋/－つまみ（☞39、46ページ）

6 本体：
• DISPLAY/━MENUボタン（☞33、36、41、49ページ）
リモコン：
DISPLAYボタン（☞36、42、49ページ）

7 動作ランプ（☞34、35、41ページ）

8 表示窓（☞35、41ページ）

9 HOLDスイッチ（☞14、16ページ）

10 本体：
■（停止）・CANCELボタン（☞23、34、40、49ページ）
リモコン：
■（停止）ボタン（☞40、49ページ）

次のページにつづく ➞

11 ❚❚（一時停止）ボタン（☞34、40、48ページ）

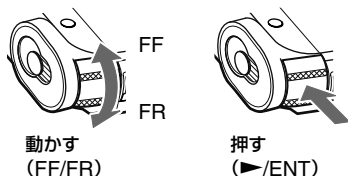
12 REC（レコーディング）スイッチ（☞28、34ページ）

13 T MARK（トラック マーク）ボタン（☞34、47ページ）

14 本体：

ジョグレバー（►（再生）/ENT（エンター）*、FF（頭出し、早送り）、FR（頭出し、早戻し））（☞39、47、49ページ）

動かす
（FF/FR）

押す
（►/ENT）

リモコン

ジョグレバー（►❚❚（再生、一時停止）/ENT（エンター）、|◄◄（頭出し、早戻し）、►►|（頭出し、早送り））（☞39、49ページ）

15 USB接続用ジャック（☞15、22、37ページ）

16 充電池入れ（☞14ページ）

17 🗀（グループ）＋/－ボタン（☞40、57ページ）

18 クリップ（☞12ページ）

19 P MODE（プレイ モード）/⮌（リピート）ボタン（☞43、56ページ）

20 SOUND（サウンド）ボタン（☞45、57ページ）

* 凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

誤操作を防ぐには（HOLD機能）

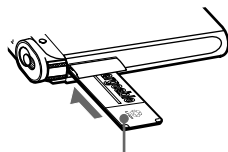
9 のHOLDスイッチを矢印の方向にずらすと、操作ができなくなります。かばんの中などに入れて持ち歩くとき、ボタンが押されて誤作動するのを防ぎます。
本体とリモコンを別々に、HOLD状態にできます。例えば、本体をHOLD状態にしても、リモコンをHOLD状態にしなければ、リモコンで操作できます。

充電する

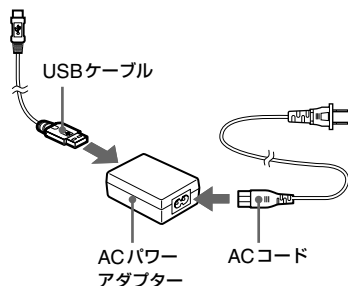
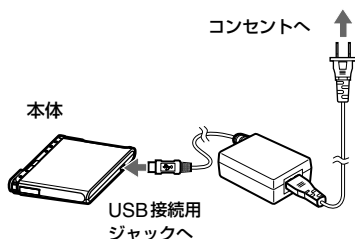
初めて使うときや電池が消耗したときは、充電式電池（充電池）を充電してください。充電中も操作できます。

1 充電池入れのふたを、矢印の方向へ押しながらずらして開ける。

2 充電池を入れる。

⊕⊖端子側を奥に、電池の表面を上にして入れます。

電池の表面を上にする

3 ふたを閉める。

4 ACコードとUSBケーブルをACパワーアダプターにつなぐ。

5 USBケーブルを本体のUSB接続用ジャックにつなぎ、ACコードをコンセントにつなぐ。

6 充電が始まったことを確認する。

充電が始まると表示窓に ▭ と、充電が終了するまでの時間（「Charging ――min left」）が表示されます。

「Charging 00min left」表示が消えたら、充電は終了です。

使いきった状態から充電を始めると、約1時間で「Charging 00min left」表示が消え、充電が一度終了します。表示が消えた時点で、約80%充電となります。その後さらに2時間ほどすると、100%充電となります。
また、充電してもすぐに表示が消える場合は、充分に充電されています。

パソコンにつないで充電する（USBバスパワー充電）

パソコンに接続して本体の充電池を充電することができます。本機とパソコンをつなぐと、パソコンのUSBポートから電源が供給され、本体の充電池の充電が始まります。使い切った状態から充電を始めると、約1時間で約80%充電となります。さらに2時間ほどすると、100%充電となります。
パソコンとの接続について詳しくは「パソコンに接続する」（☞22ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機とパソコンを接続しているときに、パソコンがシステムサスペンド、スリープ（スタンバイ状態）、システムハイバネーション（休止状態）のモードへ移行すると、本体への電源が供給されなくなります。
- 充電するときは充電池を入れてからUSBケーブルをつないでください。USBケーブルをつないでから充電池を入れると、充電できないことがあります。
- 充電にかかる時間は、本体の使用状況および周囲の温度によって異なります。＋5 ℃～＋35 ℃内の温度の場所で充電してください。
- 充電池は充電を繰り返すごとに容量が少しずつ減っていきます。そのため充電が終了するまでの時間はお使いいただいているうちに短く表示されるようになります。
- 充電池の交換は、必ず本機を停止してから行ってください。
- 録音などで長時間お使いになるときは、家庭用電源（コンセント）でお使いになることをおすすめします。
- ACパワーアダプターを使って充電中に本体の操作はできますが、充電にかかる時間は長くなります。また、USBバスパワー充電中にパソコンからの操作はできますが、充電にかかる時間は長くなります。
- USBケーブルを本体につなぐときは、本体のジョグレバーやボタンなどに触れないようにしてください。ジョグレバーやボタンなどを押しながらUSBケーブルをつなぐと、充電できないことがあります。

充電池の残量を確認するには

表示窓に以下のように表示されます。目盛りが少なくなるほど、残量が減っています。

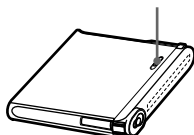
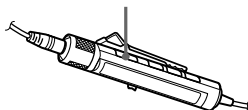
、「LOW BATTERY」

ご注意

- 残量表示は目安です。
- 動作状況により、残量表示は増減します。

本機を使用する前に

本体とリモコンのHOLD（誤操作防止）スイッチを確認してください（☞14ページ）。HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらすと、HOLD状態を解除できます。

HOLDスイッチ

HOLDスイッチ

充電池の使用可能時間[1)]

使用する状況によって、時間は異なります。

Hi-MDモードで連続的に録音／再生した場合

使用状態	ディスクの種類	リニア PCM	Hi-SP	Hi-LP	MP3[2)]
録音	Hi-MD規格専用 1GBディスク	約6時間	約9時間	約10時間30分	—[3)]
	60/74/80分ディスク	約5時間	約9時間	約10時間30分	—[3)]
再生	Hi-MD規格専用 1GBディスク	約10時間	約15時間30分	約19時間	約16時間30分
	60/74/80分ディスク	約8時間	約14時間30分	約18時間30分	約16時間

MDモードで連続的に録音／再生した場合

使用状態	ディスクの種類	SP	LP2	LP4
録音	60/74/80分ディスク	約8時間30分	約10時間30分	約12時間
再生	60/74/80分ディスク	約15時間30分	約17時間30分	約19時間

電子情報技術産業協会（JEITA）の測定方法に基づいています。

1) 充電式リチウムイオン電池100%充電時に連続で録音／再生した場合で、メニューの「EL Light」の設定（☞57ページ）が「Auto Off」に設定されているときの測定値です。

2) 128kbpsで転送した曲の場合

3) 本機ではMP3で録音することはできません。SonicStageソフトウェアを使って転送してください（☞25ページ）。

ご注意

充電池は充電を繰り返すごとに容量が少しずつ減っていきます。そのため使用可能な時間は少しずつ短くなっていきます。お買い上げ時にくらべて使用可能な時間が半分程になりましたら、新しい充電池（別売り）と交換してください。

お使いになれるディスクについて

本機では、次のディスクをお使いいただけます。

Hi-MD規格専用
1GBディスク

従来の60/74/80分
ディスク

本機の動作モードについて

本機は「Hi-MDモード」と「MDモード」の2つの動作モードを持っています。動作モードは挿入されたディスクによって自動的に切り替わります。

Hi-MD規格専用1GBディスク

そのままお使いください

従来の60/74/80分ディスク

Hi-MDモードで録音したディスク

そのままお使いください

「Hi-MDモード」を選択

まだ録音していないディスク（ブランクディスク）

付属のソフトウェアの動作モード設定、または本機のメニューの「Disc Mode」（☞58ページ）設定で選択

「MDモード」を選択

MDモードで録音したディスク

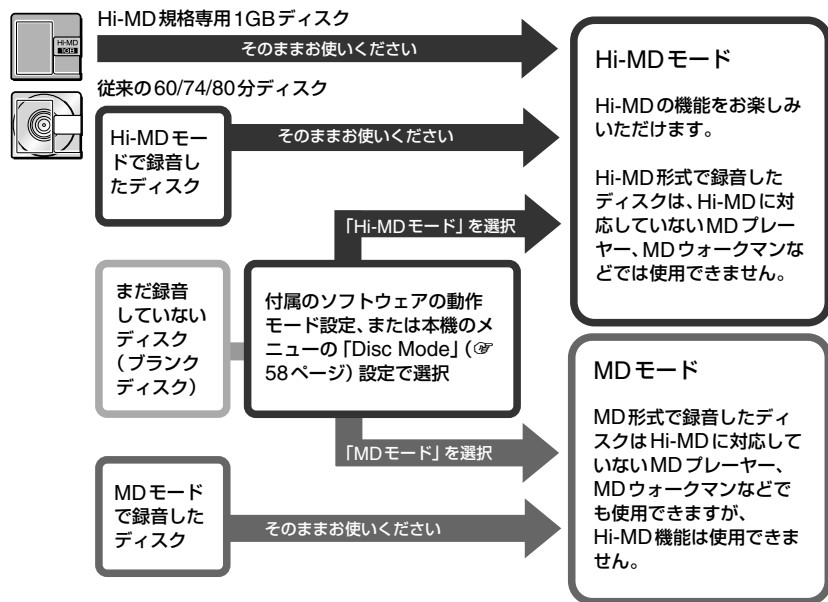
そのままお使いください

Hi-MDモード

Hi-MDの機能をお楽しみいただけます。

Hi-MD形式で録音したディスクは、Hi-MDに対応していないMDプレーヤー、MDウォークマンなどでは使用できません。

MDモード

MD形式で録音したディスクはHi-MDに対応していないMDプレーヤー、MDウォークマンなどでも使用できますが、Hi-MD機能は使用できません。

パソコンとつないでできること

付属のソフトウェアを使う

- **本機とパソコンの間で音楽データを転送する**
  付属のSonicStageソフトウェアを使って、本機とパソコンの間で音楽データをやり取りすることができます。パソコンから音楽データを転送したり、本機やほかのMD機器で録音した音楽をパソコンに転送したりすることができます。詳しい説明についてはSonicStageのヘルプをご覧ください。
- **CDから直接MDへ曲を録音する**
  付属のMD Simple Burnerソフトウェアを使って、パソコンのCDドライブに入っているCDを、直接本機のディスクへ録音することができます。

本機内のディスクを記録用媒体として使う

Hi-MDモードでお使いの場合は、パソコンの外部機器としてWindowsのエクスプローラ上で確認することができます。テキストデータや画像データなどをディスクに保存することができます。

充電する（USBバスパワー充電）

本機とパソコンをつなぐと、パソコンのUSBポートから電源が供給され、本機の充電式電池を充電できます。

Macintoshをお使いの場合

別紙のHi-MD Music Transfer for Mac取扱説明書をご覧ください。

ソフトウェア上で曲を再生すると：

- Hi-MDモードでお使いのディスクが本機に入っている場合は、パソコンのスピーカーから再生音が聞こえます。
- MD モードでお使いのディスクが本機に入っている場合は、本体につながっているヘッドホンなどから再生音が聞こえます。

ご注意

充電している場所の温度が低すぎる、または高すぎると、表示窓に電池残量表示（▬）が点滅し、USBバスパワー充電ができません。+5℃～+35℃の場所で充電してください。

SonicStage/MD Simple Burnerをインストールする

必要な環境を準備する

SonicStage/MD Simple Burnerをお使いいただくには、次のようなハードウェア、ソフトウェアが必要です。

パソコン	IBM PC/AT互換機	
	• CPU : Pentium III 450 MHz以上 • ハードディスクの空き容量 : 200 MB以上（1.5 GB以上推奨） （お使いのWindowsのバージョンや扱う音楽ファイルの量に比例して空き容量が必要となります。） • RAM : 128 MB以上	
	その他	• CDドライブ（WDMによるデジタル再生機能に対応しているドライブ） （CD書き込みにはCD-R/RWドライブが必要です。） • サウンドボード • USBポート
OS	下記、日本語版標準インストールのみ Windows XP Media Center Edition 2005/Windows XP Media Center Edition 2004/Windows XP Professional/Windows XP Home Edition/Windows 2000 Professional（Service Pack 3以上）/Windows Millennium Edition/Windows 98 Second Edition	
ディスプレイ	ハイカラー（16ビットカラー）以上、800 × 600 ドット以上 （1,024 × 768 ドット以上推奨）	
その他	• 音楽CDのデータベースサービス（CDDB）を利用する場合は、インターネットへの接続環境 • インターネット音楽配信サービス（EMD）を利用する場合は、インターネットへの接続環境とMicrosoft Internet Explorer 5.5以上がインストールされた環境 • WMAファイルを再生する場合は、Windows Media Player 7.0以上がインストールされた環境	

上記のOS以外のOS、自作PC、標準インストールされているOSからほかのOSへのアップグレード環境、マルチブート環境、マルチモニタ環境、Macintoshでは動作の保証はいたしません。

ご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- Windows XP/2000のNTFSフォーマットは、標準インストール（お買い上げ時）でのみお使いいただけます。
- すべてのパソコンに対して、システムサスペンド、スリープ（スタンバイ状態）、システムハイバネーション（休止状態）などの動作を保証するものではありません。

SonicStage/MD Simple Burnerをインストールする

必ず付属のCD-ROMを使って、パソコンに本機のドライバをインストールしてください。すでにSonicStageまたはNet MD Simple Burner、OpenMG Jukeboxがインストールされている場合は、上書きインストールされますが、今まで使っていた機能と登録した音楽データは引き継がれます。

1 パソコンで起動中のほかのプログラムをすべて終了する。

以下の場合はインストールがうまくいかないことがあるため、インストールの前に当てはまる項目がないか確認してください。

- Administrator権限／コンピュータの管理者でログオンしていない（Windows 2000/Windows XPのとき）。
- ウィルスチェックソフトが起動している（起動中の負担が大きいため）。

2 パソコンのCDドライブに付属のCD-ROMを入れる。

インストーラが起動し、インストールガイドが表示されます。

3 「地域の選択」の画面が表示された場合は、使用する地域または国を選択し、クリックする。

表示されなかった場合は手順4に進む。

4 「SonicStage/MD Simple Burnerインストール」をクリックし、画面の指示に従って操作する。

注意事項をよくお読みください。

「SonicStage/MD Simple Burnerインストール」

お使いの環境によっては20～30分かかることがあります。インストールが終わったら必ずパソコンを再起動してください。

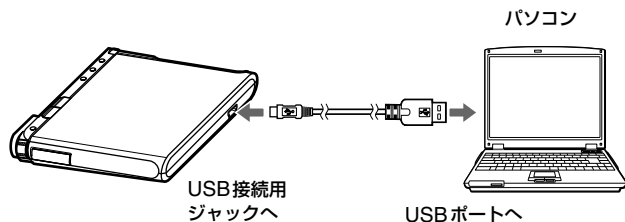
パソコンに接続する

本機とパソコンをつなぐときは、下記の手順で行ってください。

ご注意

Windows ME/98SEをお使いの場合

- 本機のディスクモードが「Hi-MD」に設定されている状態（お買い上げ時の状態）でパソコンに接続し、60/74/80分のブランクディスクを入れると、何も録音／記録しなくてもHi-MD形式のディスクになることがあります。
- USBケーブルを抜いたとき、パソコンに「デバイス取り外しの警告」というメッセージが表示されますが、問題はありません。「OK」をクリックして表示を消してください。

パソコンのUSBポートから電源が供給され、本体の電池を消耗させることなく使うことができます（USBバスパワー接続）。

1 **本体にディスクを入れる。**

2 **本体が停止していることを確認し、HOLDを解除する。**

3 **本体とパソコンをUSBケーブルでつなぐ。**

4 **正しく接続されたことを確認する。**

正しく接続されると本体の表示窓が次のようになります。

動作モードによって、「Hi-MD」または「MD」と表示されます。

USBケーブルを抜くときは

必ず下記の手順で行ってください。この手順で行わないと、データが破壊することがあります。

1 動作ランプが高速で点滅していないことを確認する。

2 本体の■・CANCELを押す。

動作ランプが消えていることを確認してください。

表示窓に「EJECT DISC OK」が表示されます。場合によっては表示が出るまでに時間がかかることがあります。

3 USBケーブルを抜く。

ディスクを取り出すときは

1 上記「USBケーブルを抜くときは」の手順1と2を行う。

2 ディスクを取り出す。

本機はHi-Speed USB*に対応しています。

* USB 2.0 Hi-Speedに対応

ご注意

- 本体が動作しているときは、USBケーブルを接続しないでください。誤動作やノイズの原因となります。
- 場合によっては本機がパソコンに認識されるまでに時間がかかることがあります。本機がパソコンに認識される前に操作を始めると、「RECONNECT USB」と表示されます。「RECONNECT USB」が表示されたときは、もう一度USBケーブルを接続し直してください。
- 動作ランプが点滅しているときは、USBケーブルを抜かないでください。故障や誤動作、データの破壊の原因となります。
- パソコンに接続して使うときは、停電やUSBケーブルが抜けてしまうなど、不慮の事故に備えて充分に充電した充電池を入れておくことをおすすめします。不慮の場合の不具合や、音楽データの転送の失敗、音楽データの破壊などについては保証いたしませんのでご注意ください。
- 本体からUSBケーブルを抜いた後に再び接続するときは、2秒以上経過してから接続してください。
- 振動のない安定した場所で使ってください。
- 本機の動作中は、パソコンに認識されません。
- パソコンと接続中に、パソコンでシステムサスペンド、スリープ（スタンバイ状態）、システムハイバネーション（休止状態）のモードへ移行すると、不具合が生じることがあります。自動的に移行する設定は避けてください。
- USBハブを介して、本機とパソコンを接続しないでください。
- パソコンのUSBポートから電源が供給されるため、お使いのパソコンがノートブックタイプなど電池使用の場合は、パソコンの電池を消耗します。パソコンをACパワーアダプターでお使いになることをおすすめします。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

SonicStageソフトウェアを使う

パソコンに音楽データを取り込む

音楽CDの曲をSonicStageのマイ ライブラリに取り込んで録音します。
CD情報（曲名やアーティスト名など）を自動で取得したい場合は、あらかじめインターネットに接続しておきます。インターネットやパソコンに保存されている音楽ファイルを取り込む方法については、SonicStageのヘルプをご覧ください。

ご注意

SonicStageで使える音楽CDは、COMPACT disc DIGITAL AUDIOのマークが入っているCDのみです。コピーコントロールCDでの動作の保証はいたしません。

1 **デスクトップにある （SonicStage）をダブルクリックする。**
SonicStageが起動します。

2 **録音したい音楽CDをパソコンのCDドライブに入れる。**

3 **「▼音楽を取り込む」の▼にポインタを合わせ、メニューから「CDを録音する」をクリックする。**

4 **をクリックする。**
選んだ曲の録音が始まります。

録音を途中でやめるには

をクリックします。

- フォーマット、録音モード、ビットレートを変更したいときは、手順4で を押す前に をクリックして設定することができます。
- CD情報を自動で取得できなかったときは、インターネットに接続している状態で、手順4で を押す前に「CD情報取得」をクリックして取得することができます。

パソコンから本機に音楽データを転送する

SonicStageのマイ ライブラリに録音した曲（音楽データ）を本機に転送します。
転送する音楽データには、曲情報に入っているアーティスト名やアルバム名などの情報が含まれています。

1 本機にディスクを入れ、パソコンに接続する（☞22ページ）。

2 「音楽を転送する▼」の▼にポインタを合わせ、「Hi-MD」または「Net MD」をクリックする。

3 マイ ライブラリの一覧から転送するアルバムや曲を選ぶ。

4 をクリックする。
本体の動作ランプが赤く点滅し、選んだ曲の転送が始まります。

転送を途中でやめるには

をクリックします。

フォーマットとビットレートを変更したいときは、手順4で を押す前に をクリックして設定することができます。

ご注意

- 転送中は本体から充電池やUSBケーブルをはずさないでください。
- 転送できる回数は、著作権保護のため制限される場合があります。

本機からパソコンに音楽データを転送する

パソコンから本機に転送した曲、本機やほかのMD機器などで録音した曲をSonicStageのマイ ライブラリに転送します。

転送したあと、インターネットからアルバム名や曲名などの情報を取得することができます。詳しくはSonicStageのヘルプをご覧ください。

1 本機にディスクを入れ、パソコンに接続する（☞22ページ）。

2 「音楽を転送する▼」の▼にポインタを合わせ、「Hi-MD」または「Net MD」をクリックする。

3 画面右側（Hi-MDまたはNet MD側）の一覧で、マイ ライブラリに転送したい曲をクリックして選択する。

4 [←]をクリックする。

手順3で選んだ曲の転送が始まります。

転送を途中でやめるには

[■]をクリックします。

💡

MD機器で録音した曲がディスクに含まれていた場合は、その曲をWAV形式で保存するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。MD機器で録音した曲をWAV形式のファイルで保存するときは、「取り込み時にWAVで保存する」チェックボックスにチェックを付け、必要に応じて「参照」ボタンをクリックして保存先のフォルダを指定してから「OK」ボタンをクリックします。

ご注意

- Hi-MDモードでお使いのときは、ディスクが誤消去防止状態になっているとパソコンに転送ができません。誤消去防止を解除してください（☞71ページ）。
- 「Net MD」モードでパソコンから転送した曲とEMDサービスで購入した曲は、同じパソコンにしか戻すことができません。
- 本機でリニアPCM録音した曲をパソコンに転送し、マイ ライブラリでディバイド（☞47ページ）またはコンバイン（☞48ページ）の編集をするとき、曲の長さやパソコンの性能によっては、編集に非常に時間がかかることがあります。これはシステム上の制約によるものです。リニアPCMで録音した長時間の曲をディバイドまたはコンバインの編集をしたいときは、パソコンに転送する前に本機側で編集することをおすすめします。

SonicStageのヘルプを見る

SonicStageのヘルプでは、SonicStageの使い方について詳しく説明しています。
SonicStageを起動した状態で、「ヘルプ」から「SonicStageのヘルプ」をクリックして表示させます。

MD Simple Burnerソフトウェアを使う

MD Simple Burnerを使って、パソコンのCDドライブに入っている音楽CDの曲を、パソコンのハードディスクに取り込まずに本機のディスクに録音します。
録音の方法はシンプルモード（本機で操作する）とスタンダードモード（パソコンで操作する）の2通りあります。

ご注意

MD Simple Burnerで使える音楽CDは、COMPACT disc DIGITAL AUDIO のマークが入っているCDのみです。コピーコントロールCDでの動作の保証はいたしません。

本機で操作して録音する（シンプルモード）

1 **本機にディスクを入れ、パソコンに接続する（☞22ページ）。**

2 **録音したい音楽CDをパソコンのCDドライブに入れる。**

3 **本体のRECを押しながらずらす。**

本体の動作ランプが赤く点滅し、録音が始まります。CD全曲が1つの新しいグループとして録音されます。録音が完了するまで、USBケーブルを抜かないでください。

録音を途中でやめるには

パソコン画面の ▷中断 をクリックします。
本機の■・CANCELボタンを押して中断することもできます。

録音する前に、パソコン画面のタスクトレイの MD Simple Burnerアイコンを右クリックすると、次の項目が設定できます。

- 「録音モード」を選ぶと、録音モードを選べます。
  — 「Net MDの場合」:「LP2」または「LP4」
  — 「Hi-MDの場合」:「PCM」または「Hi-SP」、「Hi-LP」、「48kbps」
- 「録音設定」－「先頭曲のみ録音」を選ぶと、音楽CDの先頭曲のみを録音できます。
- 「CDDB(r)」－「複数マッチ時の選択」を選ぶと、CDDBに複数のCD情報が登録されている場合の対応を選べます。
  — 「ユーザー選択」: パソコンに確認画面を表示させる
  — 「選択しない」: CD情報を取得しない
  — 「最初を自動的に選択」: 初めのCD情報を取得する

ご注意

MD Simple Burnerのスタンダードモードまたは OpenMG対応のソフトウェア（SonicStage、OpenMG Jukeboxなど）が起動しているときは、シンプルモードでの録音はできません。

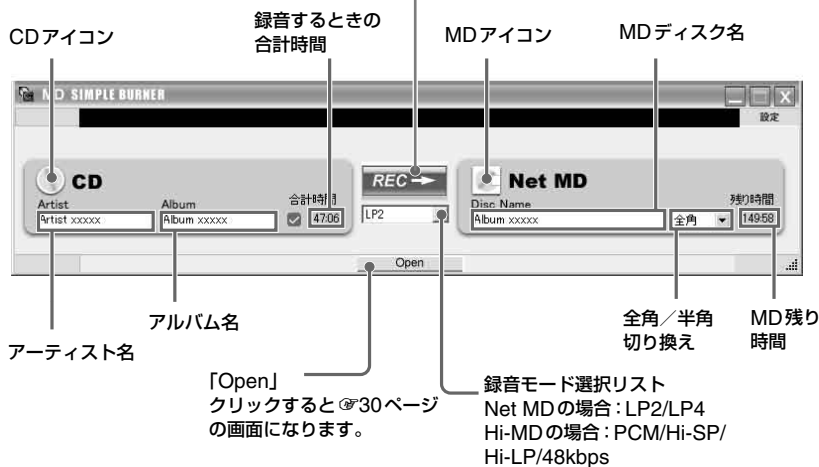
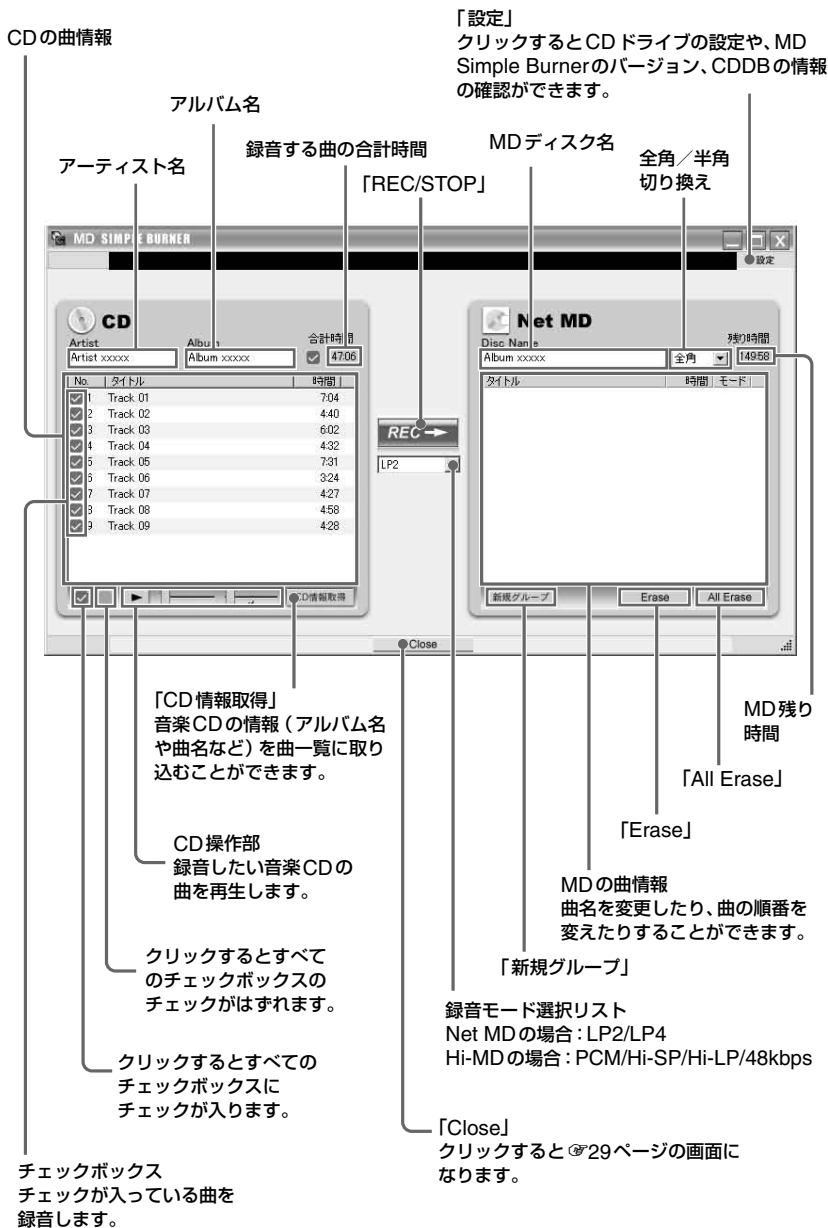
パソコン上の画面で操作して録音する（スタンダードモード）

1 本機にディスクを入れ、パソコンに接続する（☞22ページ）。

2 デスクトップにある （MD Simple Burner）をダブルクリックする。
MD Simple Burnerが起動します。

3 録音したい音楽CDをパソコンのCDドライブに入れる。

次の2種類の画面で操作できます。それぞれの画面上でできる操作は次のとおりです。

音楽CDをまるごと録音するときの画面

音楽CDから好きな曲を選んで録音するときの画面

音楽以外のデータをディスクに保存する（データストレージ）

Hi-MDモードでお使いのディスクが入っている状態で本機をパソコンに接続すると、Windowsで外付けの記憶媒体として認識され、音楽以外のデータ（テキストデータや画像データなど）をディスクに保存することができます。
各ディスクの容量について詳しくは、「ディスク容量について」（☞下記）をご覧ください。

1 **Hi-MDモードでお使いのディスクを本機に入れ、パソコンに接続する（☞22ページ）。**

Windowsのエクスプローラ上で外部機器として認識されます。ほかのデバイスと同じようにお使いください。

ご注意

- SonicStageソフトウェアが起動しているときは、外部機器として認識されません。
- パソコンでディスクをフォーマット（初期化）するときは、必ずSonicStageソフトウェア上でフォーマットしてください。
- エクスプローラ上でファイル管理フォルダやファイル（HMDHIFIフォルダ、HI-MD.INDファイル）を削除しないでください。

ディスク容量について

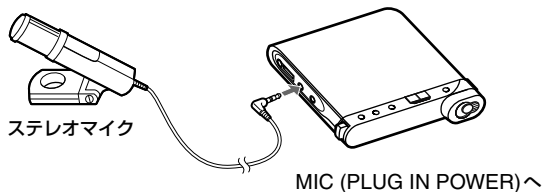
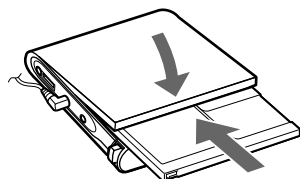
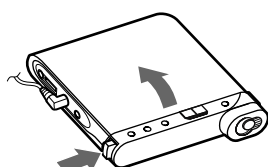
ディスクの種類によって、容量は異なります。本体／SonicStageでフォーマット（初期化）した場合の容量です。

	Hi-MD 規格専用 1GB ディスク	80 分ディスク	74 分ディスク	60 分ディスク
総容量	964 MB	291 MB	270 MB	219 MB
ディスク管理容量*	1.65 MB	1.65 MB	1.65 MB	1.65 MB
空き容量	963 MB	290 MB	268 MB	217 MB

* ディスク内のファイルを管理している領域の容量です。使用条件などによって変化するため、エクスプローラ上で表示される空き容量に対して、実際に使用できる空き容量が減少することがあります。

録音する

ステレオマイク（別売り）を使って録音する方法を説明します。録音する前に充電式電池が充分に充電されていることを確認してください。別売りのステレオマイクについては「別売りアクセサリー」（☞12ページ）をご覧ください。

1 ステレオマイクをMIC (PLUG IN POWER) につなぐ。

2 OPENボタンを押してふたを開け（❶）、矢印（❷）の向きに録音用ディスクを奥まで押し入れ、ふたを閉める。

3 動作モードを確認する。

本機は「Hi-MDモード」と「MDモード」の2つの動作モードを持っています。動作モードは、挿入されたディスクによって自動的に切り替わります。本体の表示窓で動作モードを確認してください。また、録音モード（メニューの「REC Mode」）も確認できます。必要に応じて設定を変更してください（☞50ページ）。

- Hi-MD規格専用1GBディスクを入れた場合は、自動的にHi-MDモードになります。
- 従来の60/74/80分ディスクを入れた場合は次のようになります。

ディスクの種類	動作モード
ブランクディスク	メニューの「Disc Mode」*の設定に従います。「Hi-MD」または「MD」を選び、動作モードを選択してください。
Hi-MDモードで録音されたものが入っているディスク	Hi-MDモード
MDモードで録音されたものが入っているディスク	MDモード

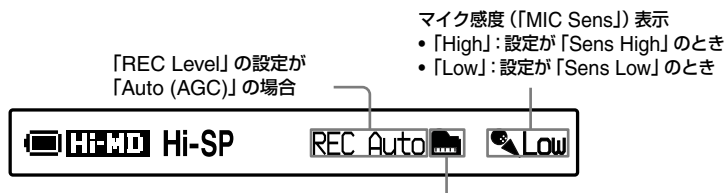
* メニューの「Disc Mode」については☞58ページをご覧ください。

4 DISPLAY/MENUを繰り返し押して、録音レベルを確認する（RECプロパティ）。

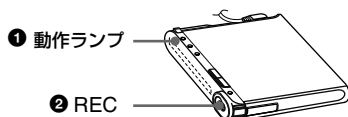
メニューの「REC Level」（☞50ページ）の設定によって表示が異なります。

- 「REC Auto」:「REC Level」の設定は「Auto (AGC)」になっています。本機が自動的に録音レベルを調節します。
- 「REC XX」:「REC Level」の設定は「Manual」になっています。以前最後に手動で設定した録音レベルの設定値が表示されます。

同時にマイク録音時の設定（メニューの「MIC AGC」、「MIC Sens」）も確認することができます。必要に応じて設定を変更してください（☞50ページ）。

次のページにつづく

5 **動作ランプが消えていることを確認し（❶）、RECを押しながらずらす（❷）。**

動作ランプが赤く点灯し、録音が始まります。

すでに録音してあるディスクを入れたときは、前の録音部分の終わりから録音されます。

録音の基本操作

こんなときは	操作
止める	■・CANCELを押す（動作ランプが消える）。
一時停止する	❚❚を押す*（動作ランプが点滅する）。もう一度押すと解除されます。
ディスクを取り出す	■・CANCELを押してから、本体のOPENボタンを押してふたを開ける。（「SystemFILE WRITING」の表示と動作ランプの点滅が消えるまでふたは開きません。）
トラックマーク（曲番）をつける	T MARKを押す（動作ランプが一瞬消える）。

* 一時停止したところでトラックマークが1つ増え、そこから次の曲として記録されます。

ご注意

- 録音は振動のない安定した場所で行ってください。
- 動作ランプが消えていることを確認してから録音を始めてください。動作ランプがはやく点滅しているときに録音を始めると、初めの数秒間が録音されないことがあります。
- 光デジタル入力、マイク入力、アナログ入力の順に優先して自動的に選択します。光デジタルケーブルがLINE IN (OPT)ジャックにつながっていると、マイク入力になりません。
- 本体の動作音が録音されることがあります。そのときは、マイクを本体から遠ざけて録音してください。ダイレクトタイプのマイクはノイズを拾うことがあるのでご注意ください。
- モノラルマイクで録音すると、左チャンネルしか録音できません。
- 本体が動作しているときは、USBケーブルを接続しないでください。誤動作やノイズの原因となります。
- コンセントにつないでマイク録音しているときは、ノイズが入ることがありますので、マイク本体やプラグ部分には触れないでください。
- 録音中や「DATA SAVE」、「SystemFILE WRITING」（リモコンでは「DATA SAVE」、「SYSTEM WRITE」）の表示中に、本機に衝撃を与えたり、電源を抜いたりすると、それまでに録音した内容が記録されません。また、ディスクに入っているデータが壊れることもあります。
- ディスクの空き容量が少ない場合は録音できません。
- 録音中や編集中、またその後■・CANCELを押してから「DATA SAVE」、「SystemFILE WRITING」（リモコンでは「DATA SAVE」、「SYSTEM WRITE」）の表示が消える前に電池をはずしたり、電池が消耗したときは、次に電源を入れるまでふたは開きません。

💡

- プラグインパワータイプのマイクをお使いの場合、電源は本体から供給されますので、マイクの電源をOFFにしても使うことができます。
- 録音する音源によって、マイクの感度や録音レベルの自動調節モードを変更することができます（☞50ページ）。
- お買い上げ時は、常に新しいグループを作って録音するように設定されています。グループを作らずに録音したい場合は、グループ録音（「Group REC」）の設定を「Off」に設定してください（☞50ページ）。
- ディスクの途中に録音したいときは、録音したい位置で一時停止をしてから録音を始めてください。
- 録音中の音を聞くことができます。音量を変えても録音される音の大きさは変わりません。
- 時計を合わせておくと、録音日時が自動的に記録されます（☞60ページ）。
- 録音などで長時間お使いになるときは、家庭用電源（コンセント）につないでお使いになることをおすすめします。

録音のときの表示

本体表示窓

1 電池残量（☞16ページ）

2 動作ランプ
- 録音中：点灯（赤）
- 録音一時停止中：点滅（赤）
- ディスクの録音可能時間が3分以下になったとき：ゆっくり点滅（赤）
- マイク録音中：音の強弱に合わせて点滅（ボイスミラー）（赤）

3 情報表示部1
- 録音レベルメーター（上図）
- 動作モード表示（例：Hi-MD）
- 録音モード表示（例：Hi-SP）
- シンクロ録音表示（SYNC）

4 情報表示部2
「本体の表示を切り換えるときは」（☞36ページ）参照

本体の表示を切り換えるときは

本体のDISPLAY/MENUを繰り返し押します。

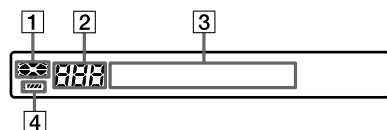
押すたびに、次のように情報が切り替わります。（録音中は情報表示部1（☞35ページの③）に録音レベルメーターが表示されます。）

停止中/録音中

1) ディスクの空き容量は、Hi-MDモードでお使いのディスクの場合で停止中のみ表示されます。

2) 停止中のみ表示されます。

3) LチャンネルとRチャンネルそれぞれ、100 Hz、250 Hz、630 Hz、1.6 kHz、4 kHz、10 kHzの周波数を表します。

リモコン表示窓

1 ディスク表示

2 曲番、全曲数

3 情報表示部
「リモコンの表示を切り換えるときは」（☞ 下記）参照

4 電池残量

リモコンの表示を切り換えるときは

DISPLAYを繰り返し押します。押すたびに次のように情報が切り替わります。

停止中/録音中

1) ディスクの空き容量は、Hi-MDモードでお使いのディスクの場合で停止中のみ表示されます。

2) 停止中のみ表示されます。

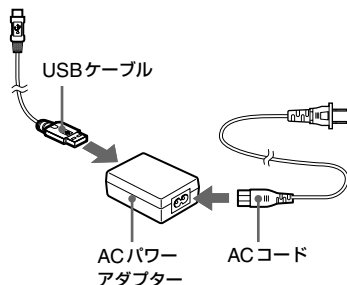
3) 選択している再生モードによって表示される情報が異なります。（例：再生モードが「グループ再生」の場合、「グループ再生」と「▭：グループ名」を表示）

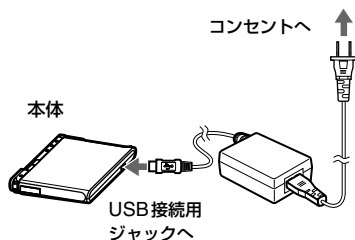
ご注意

- ディスクのグループ設定状態、動作状態、設定状況により、表示が異なります。
- Hi-MDモードでお使いの場合、録音残り時間が「R 00:00」（リモコンでは「–00:00」）のとき、ディスクの空き容量が「2.0MB」と表示されます。これはシステム上の制約で2.0MBは予備領域の容量です。

ほかの機器から録音する

CDプレーヤーやBSチューナーなどの機器とつないで録音する方法を説明します。別売りの光デジタルケーブルをご用意ください。

1 ACコードとUSBケーブルをACパワーアダプターにつなぐ。

2 USBケーブルを本体のUSB接続用ジャックにつなぎ、ACコードをコンセントにつなぐ。

次のページにつづく

3 **光デジタルケーブルをつなぐ。**

別売りの光デジタルケーブルについては「別売りアクセサリー」(☞12ページ)をご覧ください。

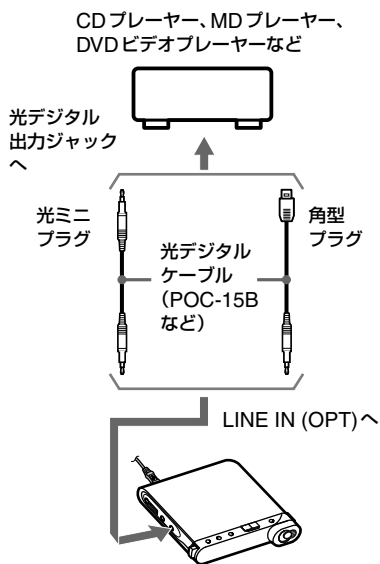
4 **OPENボタンを押してふたを開け、ディスクを入れる。**

5 **動作モードと録音レベルの設定を確認する。**

「録音する」の手順3、4を参照してください(☞33ページ)。

6 **録音したいCDなどを一時停止にし、本体の動作ランプが消えていることを確認する。**

7 **RECを押しながらずらし、CDなどを再生する。**

曲番は録音元のCDなどと同じ場所に付きます。

アナログ録音するときは

カセットテープやラジオ、テレビなどのアナログ音声出力のある機器から録音することができます。

1 ラジカセやテレビのLINE OUT出力端子などと、本機のLINE IN (OPT)端子を、別売り接続コード(RK-G129など)で接続する。

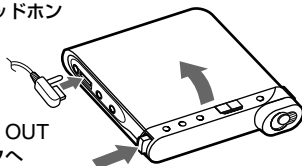
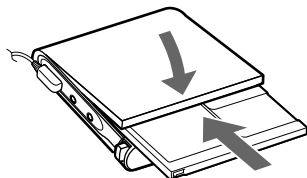
2 RECを押しながらずらす。

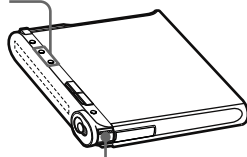
3 録音したい音を出す。

- お買い上げ時は、常に新しいグループを作って録音するように設定されています。グループを作らずに録音したい場合は、グループ録音(「Group REC」)の設定を「Off」に設定してください(☞50ページ)。
- お使いになるケーブルについては☞76ページもご覧ください。

再生する

1 **OPENボタンを押してふたを開け（❶）、矢印（❷）の向きに録音済みのディスクを奥まで押し入れ、ふたを閉める。**

あらかじめリモコン付きヘッドホンを、本体につないでおきます。

2 **ジョグレバー（►/ENT）を押して（❶）再生を始め、VOL＋/－を押して（❷）音量を調節する。**

表示窓で音量を確認できます。

リモコンで操作するときは

ジョグレバー（►II/ENT）を押すと、再生が始まります。VOL＋/－つまみを回して、音量を調節します。

再生の基本操作

こんなときは		本体操作(リモコン操作)
再生	続きから再生する	ジョグレバー(►/ENT)を押す。前回再生を止めたところから始まる。(ジョグレバー(►II/ENT)を押す。)
	ディスクの最初の曲から再生する	停止中に、ジョグレバー(►/ENT)を2秒以上押したままにする。(停止中に、ジョグレバー(►II/ENT)を2秒以上押したままにする。)
停止	一時停止する/一時停止を解除する	IIを押す。(ジョグレバー(►II/ENT)を押す。)
	再生を止める	■・CANCELを押す。(■を押す。)
頭出し/サーチ	今聞いている曲、またはさらに前の曲を頭出しする	ジョグレバーをFR側に1度動かす。または、さらに戻したい曲数だけFR側に動かす。(ジョグレバーを I◄◄ 側に1度動かす。または、さらに戻したい曲数だけ I◄◄ 側に動かす。)
	次の曲を頭出しする	ジョグレバーをFF側に1度動かす。(ジョグレバーを ►►I 側に1度動かす。)
	早戻し/早送りする	再生中または一時停止中に、ジョグレバーをFF/FR側に動かしたままにする。(再生中または一時停止中に、ジョグレバーを I◄◄/►►I 側に動かしたままにする。)
	グループの頭出しをする*(グループスキップ)	リモコンの 🗀+/−を押す。
ディスクを取り出す		■・CANCELを押してから、OPENボタンを押してふたを開ける。**(■を押してから、本体のOPENボタンを押してふたを開ける。)

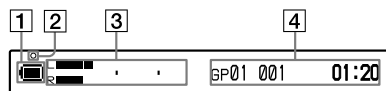
* ディスクにグループがない場合は、10曲ごとに頭出しされます。

** ふたを開けると、次の再生はディスクの最初から始まります。

ご注意

- 本機が動作しているときは、USBケーブルを接続しないでください。誤動作やノイズの原因となります。
- 次のような場合、音が飛ぶことがあります。
  — 強い衝撃が連続的に与えられた場合
  — 傷や汚れのあるディスクを聞いている場合
  Hi-MDモードのディスクの場合、最大で約12秒間音が途切れることがあります。

再生のときの表示

本体表示窓

1 電池残量（☞16ページ）

2 動作ランプ
再生中や再生一時停止中に、編集操作をした場合：ゆっくり点滅（赤）

3 情報表示部1
レベルメーター（上図）

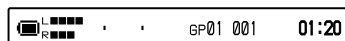
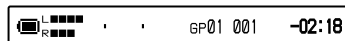
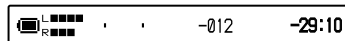
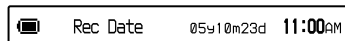
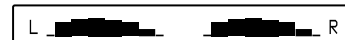
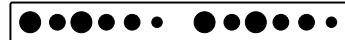
4 情報表示部2
「本体の表示を切り換えるときは」（☞右記）参照

本体の表示を切り換えるときは

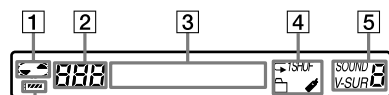
本体のDISPLAY/MENUを繰り返し押します。

押すたびに、次のように情報が切り替わります。

再生中

グループ番号と曲番、経過時間

グループ番号と曲番、再生中の曲の残り時間

再生残り曲数、再生できる残り時間

録音年月日、録音時刻*

スペクトラムアナライザ（標準）**

スペクトラムアナライザ（円）**

* 録音日時が記録されている場合に、表示されます。

** LチャンネルとRチャンネルそれぞれ、100 Hz、250 Hz、630 Hz、1.6 kHz、4 kHz、10 kHzの周波数を表します。

リモコン表示窓

1 ディスク表示

2 曲番、全曲数

3 情報表示部
「リモコンの表示を切り換えるときは」（☞ 下記）参照

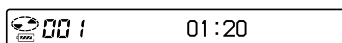
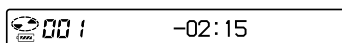
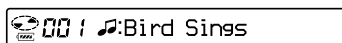
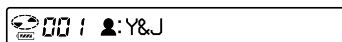
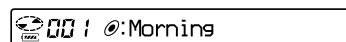
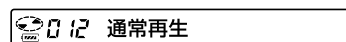
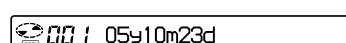
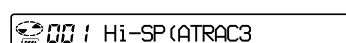
4 再生モード、リピート再生表示（☞43、44ページ）

5 サウンド設定（☞45ページ）

6 電池残量

リモコンの表示を切り換えるときは

DISPLAYを繰り返し押します。押すたびに次のように情報が切り替わります。

再生中

曲番、録音年月日、録音時刻2)

曲番、再生オーディオフォーマット情報3)

1) 選択している再生モードによって表示される情報が異なります。（例：再生モードが「グループ再生」の場合、「グループ再生」と「□：グループ名」を表示）

2) 録音日時が記録されている場合に、表示されます。

3) Hi-MDモードでお使いのディスクでは録音モード／コーデック／ビットレート情報、MDモードでお使いのディスクでは録音モード情報が表示されます。

ご注意

- ディスクのグループ設定状態、動作状態、設定状況により、表示が異なります。
- MP3で可変ビットレート（VBR）の曲の場合、表示されるビットレートはSonicStageで表示されるビットレートと一致しないことがあります。
- バーチャルサラウンド、6バンドイコライザ、ダイナミックノーマライザが設定されているときは、その設定状態でのスペクトラムアナライザの表示がされます。

再生方法を選んで聞く

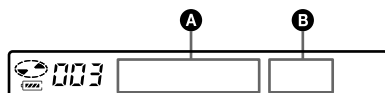
リモコンでのみ操作できます。

再生モードを選んで聞く

1 **P MODE/⮎ を2秒以上押す。**

2 **ジョグレバーを⏮/⏭側に繰り返し動かしてお好みの再生モードを選び、押して決定する。**

ジョグレバーを動かすとⒶが次のように変わり、押すとⒷが表示されます。

Ⓐ Ⓑ
003

表示 Ⓐ/Ⓑ	再生モード
通常再生/（表示なし）	ディスク全曲を再生
グループ再生/🗀	お好みのグループの曲のみを再生
アーティスト再生/🗀	お好みのアーティストの曲のみを再生*
アルバム再生/🗀	お好みのアルバムの曲のみを再生*
ブックマーク再生/🖋	ブックマーク（しおり）が付いている曲のみを再生

* Hi-MDモードでお使いのディスクのみ表示されます。

3 • **「通常再生」を選んだ場合**

手順2を繰り返して、お好みの曲を選ぶ。

再生が始まります。

• **「グループ再生」、「アーティスト再生」、「アルバム再生」を選んだ場合**

手順2を繰り返してお好みのグループ、アーティスト、アルバムを選び、再度手順2を繰り返してお好みの曲を選ぶ。

再生が始まります。

• **「ブックマーク再生」を選んだ場合**

「聞きたい曲だけ再生する（ブックマーク再生）」（☞下記）を参照。

聞きたい曲だけ再生する（ブックマーク再生）

好きな曲にブックマーク（しおり）を付けて、その曲だけを再生できます。ただし、再生する曲順は変えられません。

1 **ブックマークをつけたい曲を再生し、ジョグレバーを2秒以上押す。**

「ON」が表示され、「🖋」がゆっくり点滅します。

2 **複数の曲にブックマークを付けたいときは、手順1を繰り返す。**

3 **「再生モードを選んで聞く」の手順を行い、手順2で「ブックマーク再生」を選ぶ。**

4 **ジョグレバーを⏮/⏭側に繰り返し動かしてお好みの曲を選び、押して決定する。**

選んだ曲から順に、ブックマークされた最後の曲まで再生します。

ブックマークを消すには

ブックマークを付けた曲の再生中に、ジョグレバーを2秒以上押します。

繰り返し聞く（リピート再生）

再生モードで選んだ曲をいろいろな繰り返しのしかたで聞くことができます。

1 P MODE/↻ を繰り返し押して、お好みのリピートモードを選ぶ。

押すたびに表示は次のように切り替わります。

表示	リピートモード
↻	全曲リピート再生（全曲を繰り返し再生）
↻ 1	1曲リピート再生（再生中の曲を繰り返し再生）
↻ SHUF	シャッフルリピート再生（全曲を順不同に並べかえ、繰り返し再生）
A-（A-B↻）	A-Bリピート再生（曲の中のA点とB点を指定して、その間を繰り返し再生）

曲中の指定した部分だけを繰り返して再生する（A-Bリピート再生）

1曲の中で指定した部分を繰り返し再生できます。1曲の範囲を越えての指定はできません。

1 再生中に「繰り返し聞く（リピート再生）」（☞左記）の手順を行い、「A-」を選ぶ。

A点（始点）が点滅します。

2 繰り返したい部分の始点（A点）でジョグレバーを押す。

A点が点灯し、B点（終点）が点滅します。

3 そのまま再生を続けて、繰り返したい部分の終点（B点）でジョグレバーを押す。

「A-B」と「↻」が表示され、A点とB点の間を繰り返し再生します。

A-Bリピート再生中にジョグレバーを▶▶|側に動かすと、A点、B点を設定し直すことができます。

リピート再生を解除するには

P MODE/↻ を繰り返し押して、↻ 表示を消してください。

好みの音にする（バーチャルサラウンド/6バンドイコライザ/ダイナミックノーマライザ）

次の3つの効果から1つ選べます。

- V-SUR（バーチャルサラウンド）：音の臨場感を変える。（4種類）
- 6 BAND EQUALIZER（6バンドイコライザ）：音質を変える。（6種類）
- D-Normalizer（ダイナミックノーマライザ）：音のレベルを自動的にそろえる。

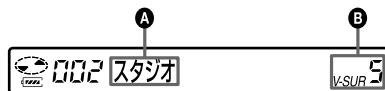
リモコンでのみ操作できます。

臨場感を変える（バーチャルサラウンド）

1 再生中、SOUNDを繰り返し押し、「V-SUR」を表示させる。

2 SOUNDを2秒以上押す。

3 ジョグレバーを⏮/⏭側に繰り返し動かしてサラウンドの種類を選ぶ。

ジョグレバーを動かすたび、Ⓐ とⒷ が次のように変わります。

Ⓐ	Ⓑ
スタジオ	V-SUR S
ライブ	V-SUR L
クラブ	V-SUR C
アリーナ	V-SUR A

4 ジョグレバーを押して決定する。

設定を解除するときは

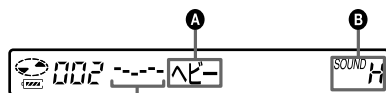
SOUNDを繰り返し押して、「通常」を選びます。

音質を変える（6バンドイコライザ）

1 再生中、SOUNDを繰り返し押し、「SOUND」を表示させる。

2 SOUNDを2秒以上押す。

3 ジョグレバーを⏮/⏭側に繰り返し動かしてサウンドの種類を選ぶ。

ジョグレバーを動かすたび、Ⓐ とⒷ が次のように変わります。

周波数ごとのレベル
100 Hz、250 Hz、630 Hz、
1.6 kHz、4 kHz、10 kHz

Ⓐ	Ⓑ
ヘビー	SOUND H
ポップス	SOUND P
ジャズ	SOUND J
ユニーク	SOUND U
カスタム1	SOUND 1
カスタム2	SOUND 2

4 ジョグレバーを押して決定する。

設定を解除するときは

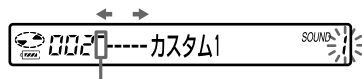
SOUNDを繰り返し押して、「通常」を選びます。

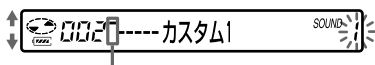
好みの音質にする（カスタム）

「カスタム1」と「カスタム2」にはお好みの音質を記憶させることができます。

1 「音質を変える（6バンドイコライザ）」（☞45ページ）の手順1～3を行い、手順3で「カスタム1」または「カスタム2」を選ぶ。

2 ジョグレバーを押す。

3 ジョグレバーを ⏮/⏭ 側に繰り返し動かして周波数を選ぶ。

周波数（100 Hz）
周波数は次の6つから選べます。
100 Hz、250 Hz、630 Hz、1.6 kHz、4 kHz、10 kHz

4 VOL +/–を回してレベルを選ぶ。

レベル（+10 dB）
レベルは次の7段階から選べます。
–10 dB、–6 dB、–3 dB、0 dB、+3 dB、+6 dB、+10 dB

5 手順3、4を繰り返す。

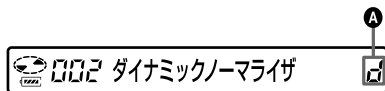
6 ジョグレバーを押す。

音のレベルを自動的にそろえる（ダイナミックノーマライザ）

再生時に常に聞きやすいレベルとなるよう、録音されている音の大きさを自動的にそろえる機能です。

1 再生中、SOUNDを繰り返し押し、「ダイナミックノーマライザ」を表示させる。

Ⓐに「d」が表示されます。

002 ダイナミックノーマライザ

2 音量を調節する。

- 音量差の大きい曲が混ざって録音されたディスクでも、曲ごとに音量調節をするわずらわしさが少なくなります。
- 周囲の騒音が大きいところでも、音量を上げすぎることなく小音量の部分が聞きやすくなります。

設定を解除するときは

SOUNDを繰り返し押して、「通常」を選びます。

曲を分ける（ディバイド）

再生中にトラックマークをつけて、曲を分けることができます。
本体でのみ操作できます。

ご注意

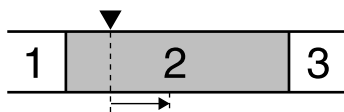
次のような場合は曲を分けることができません。
- パソコンから転送した曲の場合
- MD Simple Burnerを使ってHi-MDモードで録音した曲の場合
- 分ける位置が曲の初めと終わりの部分の場合
- 曲を分けた結果、最大曲数（Hi-MDモードでお使いのディスクでは2,047曲、MDモードでお使いのディスクでは254曲）を超えてしまう場合

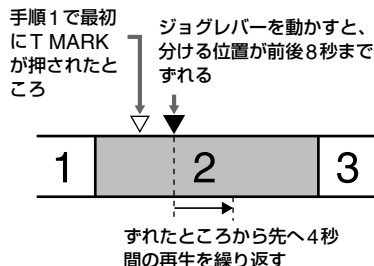
1 再生中または再生一時停止中に、分けたい位置でT MARKを押す。

分ける位置を調節してから曲を分ける（ディバイドリハーサル）

曲を分ける前に分ける位置を微調節します。

1 再生中、再生一時停止中にT MARKを2秒以上押す。

T MARKが押されたところから、先へ4秒間の再生を繰り返します。

2 ジョグレバーをFF/FR側に動かして曲を分ける位置を調節する。

ジョグレバーをFF/FR側に動かすと分ける位置が前後にずれていきます。手順1でT MARKを押した位置から、最大8秒前後に動かすことができます。

3 ジョグレバーを押して決定する。

「MARK ON」が表示され、曲が分かれます。

ディバイドリハーサル中でもスピードコントロール機能を使うことができます（☞53ページ）。より正確に分ける位置を選ぶために、再生速度を遅くすることもできます。

ご注意

リニアPCMで録音した長時間の曲を分けるときは、本機を使って分けることをおすすめします。パソコン上でも曲を分けることはできますが、非常に時間がかかることがあります。

曲を1つにする（コンバイン）

不要なトラックマークを消して前後の曲をつなぎ、1つの曲にまとめることができます。本体でのみ操作できます。

ご注意

次のような場合は曲をつなぐことができません。
- パソコンから転送した曲の場合
- MD Simple Burnerを使ってHi-MDモードで録音した曲の場合
- 異なる録音モードで録音された曲の場合

1 曲番を消したい曲を再生し、II を押して再生一時停止にする。

2 ジョグレバーをFR側に動かし、曲の先頭（00:00）にする。

例えば、2曲目と3曲目をつなぎたいときは、3曲目の先頭にします。
「MARK」が表示されます。

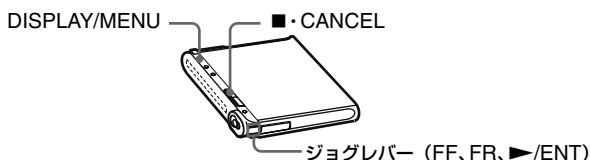
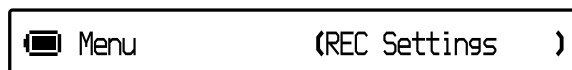
3 T MARKを押す。

「MARK OFF」が表示され、指定した曲が前の曲につながります。

曲名や録音日時は、つないだ2曲の1曲目のものになります。

ご注意

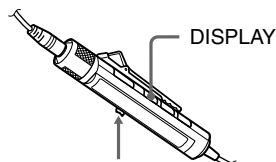
- 別のグループに属する連続した2つの曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲が属するグループに登録されます。また、グループに登録された曲とされていない曲をつなぐと、後ろの曲は前の曲の設定と同じになります。
- リニアPCMで録音した長時間の曲をつなぐときは、本機を使ってつなぐことをおすすめします。パソコン上でも曲をつなぐことはできますが、非常に時間がかかることがあります。

メニューを使う

1 DISPLAY/MENUを2秒以上押す。

2 ジョグレバーをFF/FR側に繰り返し動かして項目を選ぶ。

3 ジョグレバー（►/ENT）を押す。

4 手順2 ～ 3を繰り返す。
設定が確定します。

リモコンで操作するときは

再生するとき、編集するときのメニュー項目の一部をリモコンでも設定できます。

1 DISPLAYを2秒以上押す。

2 ジョグレバーをI◄◄/►►I側に繰り返し動かして項目を選ぶ。

3 ジョグレバー（►II/ENT）を押す。

4 手順**2** ～ **3**を繰り返す。

1つ前の画面に戻るには

■・CANCEL（リモコンでは■）を押します。

操作を途中でやめるには

■・CANCEL（リモコンでは■）を2秒以上押します。

録音するときのメニュー

メニューで「REC Settings」を選びます。本体でのみ操作できます。

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）		
REC Mode	PCM[1]		80分ディスクに約28分、Hi-MD規格専用1GBディスクに約1時間34分録音できます（リニアPCM録音）。
	Hi-SP ●[1]		80分ディスクに約2時間20分、Hi-MD規格専用1GBディスクに約7時間55分録音できます。
	Hi-LP[1]		80分ディスクに約10時間10分、Hi-MD規格専用1GBディスクに約34時間録音できます。
	SP ●[2]		80分ディスクに約1時間20分録音できます。
	LP2[2][3]		80分ディスクに約2時間40分録音できます。
	LP4[2][3]		80分ディスクに約5時間20分録音できます。
REC Level	Auto (AGC) ●		録音レベルを本機が自動的に調節します。
	Manual		録音レベルを手動で調節します（☞52ページ）。
MIC AGC	Standard ●		マイク録音時に、会話などを歪みを抑えて明瞭に録音したいときに適した録音レベルの自動調節モードです。「REC Level」の設定が「Auto (AGC)」の場合に設定できます。
	For Music		マイク録音時に、ライブや楽器演奏などをオリジナルに近い音量変化のまま、より歪みを抑えて録音したいときに適した録音レベルの自動調節モードです。「REC Level」の設定が「Auto (AGC)」の場合に設定できます。
MIC Sens	Sens High ●		マイク録音時に、会話など通常の音量のものを録音するときのマイク感度です。
	Sens Low		マイク録音時に、口述録音などマイクを口元に近づけて録音するときや、ライブなど近くの音や大きな音を録音するときのマイク感度です。
Time Mark	Off ●		録音元と同じところに自動的にトラックマーク（曲番）がつきます。
	On	Time 01 min ~Time 60 min	一定時間おきにトラックマーク（曲番）をつけながら録音します。1分から60分まで1分刻みで設定します。
Group REC	Off		録音時、グループを作らずに録音します。
	On ●		録音時、新規グループを作って録音します。
SYNC REC	Off ●		通常の録音をします。
	On		シンクロ録音をします（デジタル録音するときに、録音元の音源に合わせて録音を始めたり止めたりします）。

[1] Hi-MDモードでお使いのディスクの場合のみ表示されます。Hi-MD AUDIO または Hi-MD ロゴのある機器が「PCM」、「Hi-SP」、「Hi-LP」に対応しています。

[2] MDモードでお使いのディスクの場合のみ表示されます。

[3] MDLP または MDLP ロゴのある機器が「LP2」、「LP4」に対応しています。

マイク録音の設定（「MIC AGC」）について

音楽の音量が小さく、周囲の雑音（拍手や観衆の声など）の音量の方が大きい場合は、「MIC AGC」の設定は「Standard」が適しています。

ご注意

手動で録音レベルを調節する設定になっているとき（メニューの「REC Level」–「Manual」を選んでいるとき、☞52ページ）は、「MIC AGC」の設定をすることはできません。

トラックマークの設定（「Time Mark」）について

録音中に「Time Mark」の設定をしたときは

- 録音経過時間が「Time Mark」の設定時間を超えていたとき：
  設定をしたところにトラックマークがつき、以後設定時間ごとにトラックマークがつく

  例）録音経過時間が8分、「Time Mark」設定時間が5分（「Time 05 min」）のとき、トラックマークは次のようにつきます。
  8分、13分、18分、23分・・・・
- 録音経過時間が「Time Mark」の設定時間より短いとき：
  「Time Mark」の設定どおりにトラックマークがつく

  例）録音経過時間が3分、「Time Mark」設定時間が5分（「Time 05 min」）のとき、トラックマークは次のようにつきます。
  5分、10分、15分、20分・・・・

「Time Mark」設定でトラックマークをつけると、表示窓の時間表示の前に「T」がつきます。

ご注意

- 「Time Mark」はマイク録音またはアナログ録音中のみ設定することができます。
- 録音の途中にT MARKを押したり、❚❚を押してトラックマークがついてしまったときは、その時点から「Time Mark」で設定した時間ごとにトラックマークがつきます。
- 光デジタルケーブルをつなぐと、「Time Mark」設定は解除されます。

シンクロ録音の設定（「SYNC REC」）について

シンクロ録音中に録音元で約3秒の無音が続くと、本機は自動的に録音一時停止になります。再び音を検知すると、シンクロ録音に戻ります。録音一時停止状態が5分以上続くと、自動的に録音が止まります。

ご注意

- シンクロ録音中は、手動で一時停止または一時停止を解除することができません。
- 録音中はシンクロ録音の設定を切り換えないでください。正しく録音されないことがあります。
- シンクロ録音中に録音元で無音（☞80ページ）状態が続いても、録音元の雑音が原因で自動的に録音一時停止にならない場合があります。
- CDやMD以外からのシンクロ録音中に、録音元の同一曲内で約2秒の無音（☞80ページ）が続くと、再び音が出たところで曲番が1つ増えます。

手動で録音レベルを調節する

録音レベルは必要に応じて手動で調節できます。アナログ録音のときはもちろん、デジタル録音のときでも調節できます（デジタルRECレベルコントロール）。

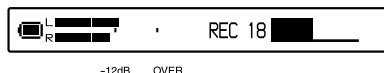
1 停止中または録音一時停止中に、メニュー（☞49ページ）で「REC Settings」－「REC Level」－「Manual」を選ぶ。

2 本体の❚❚を押しながら、RECをずらす。

動作ランプが赤く点滅し、録音一時停止になります。

3 録音したい音を出す。

4 表示窓を見ながらジョグレバーをFF/FR側に動かして、録音レベルを調節する。

録音レベルはレベルメーターが「–12dB」付近で点灯するように調節します。大きな音が入ったときに、「OVER」のレベルメーター（「▩」）が点灯する場合は、録音レベルを下げてください。

5 ❚❚を押して録音を始める。

ほかの機器とつないで録音するときは、本機が録音を始めた後で、録音元の音を最初から出し直してください。

- 録音中にジョグレバーを動かして録音レベルを調節することもできます。
- 録音を停止しても、次に設定をし直すまで録音レベルの設定は保持されます。

ご注意

- 左右の音（チャンネル）のレベルは、別々に調節できません。
- シンクロ録音時に手動で調節するときは、まずシンクロ録音（「SYNC REC」）の設定が「Off」の状態で上記手順1～4を行い、録音レベルの調節をします。その後、シンクロ録音の設定を「On」にして、録音を始めます。

再生するときのメニュー

リモコンでのみ操作できます。

項目	設定内容	
スピードコントロール（SpeedControl）	+100% ～ –50%	再生速度を変更します。15段階から選択します。

通常の速度に戻すには

再生速度を「0%」に設定します。

再生速度を「0%」以外に設定すると、表示窓の時間表示の前に「SC」と表示されます。

ご注意

- 再生速度を変えると、再生中に「プチプチ」という音が聞こえたり、エコーがかかったように聞こえることがあります。
- 再生速度を変えると、バーチャルサラウンド、6バンドイコライザ、ダイナミックノーマライザ（☞45ページ）は働かなくなります。

編集するときのメニュー

本体で設定できるメニューとリモコンで設定できるメニューがあります。

編集する前に

編集中や「SystemFILE WRITING」の表示中に、衝撃を与えたり電源を抜いたりすると、それまで編集した内容が記録されません。またディスクに入っているデータが壊れることがあります。

本体で設定するメニュー

メニューで「Edit」を選びます。

項目	設定内容	
Move	Track Move	曲を移動して曲順を並べ換えます（☞55ページ）。
	Group Move	グループを移動して順番を並べ換えます（☞55ページ）。
Erase	Track Erase	曲を消します。消したい曲の再生中に操作します。
	Group Erase	グループとグループ内の全ての曲を消します。消したいグループに属する曲を再生中に操作します。
	All Tr Erase	ディスクの全曲を消します。停止中に操作します。
Format*	ディスクをフォーマット（初期化）して、ディスクをお買い上げ時の状態に戻します。	

* Hi-MDモードでお使いのディスクの場合のみ表示されます。

リモコンで設定するメニュー

項目	設定内容	
タイトル入力（Title Input）（☞56ページ）	曲名入力（Track）	曲名をつけます。
	グループ名入力（Group）	グループ名をつけます。
	アーティスト名入力（Artist）*	アーティスト名をつけます。
	アルバム名入力（Album）*	アルバム名をつけます。
	ディスク名入力（Disc）	ディスク名をつけます。

* Hi-MDモードでお使いのディスクの場合のみ表示されます。

イレース機能（「Erase」）について

曲やグループを消すときは

一度消した曲やグループは元に戻すことができません。消す前に内容をよく確認してください。

パソコンから転送した曲を消すときは

パソコンから転送した曲を「Erase」機能を使って本機で消そうとすると、「TRACK FROM PC」と「ERASE OK?」が表示されます。消した場合、曲の権利は次のようになります。

- Hi-MDモードで転送した曲の場合は、そのディスクを本体に入れパソコンに接続すると、曲の権利が自動的に復活します。
- MDモードで転送された曲の場合は、曲の権利が1回分失われます。曲の権利を失いたくないときは、曲を消す前にパソコンにつないで曲の権利を戻してください。

曲の一部分を消すには

無音部分など不要な部分だけを消したいときは、不要な部分の始まりと終わりにトラックマークをつけて（☞47ページ）その部分を消します。

ご注意

- 「Erase」機能を使って、音楽データ以外のデータ（テキストデータや画像データなど）を消すことはできません。
- 「Track Erase」機能を使ってグループの中の曲を全部消した場合、そのグループは自動的に消去されます。

フォーマット機能（「Format」）について

ディスクをフォーマットしたときは

ディスクをフォーマットすると曲の権利は次のようになります。

- Hi-MD規格専用1GBディスクの場合は、そのディスクを本体に入れパソコンに接続すると、曲の権利が自動的に復活します。
- 60/74/80分ディスクの場合は、曲の権利が1回分失われます。曲の権利を失いたくないときは、フォーマットする前にパソコンにつないで曲の権利を戻してください。

ご注意

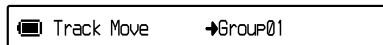
ディスクをフォーマットすると音楽データ以外のデータも消去されます。音楽データ以外のデータが含まれているディスクは、パソコンにつないで内容を確認してください。

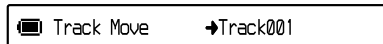
曲を移動する

曲を別のグループに移動したりグループの外へ移動することができます。曲順を変えると、連続した曲番が自動的につきます。本体でのみ操作できます。

1 移動したい曲の再生中または停止中に、メニュー（☞49ページ）で「Edit」－「Move」－「Track Move」を選ぶ。

再生中の曲がグループに属している場合はグループ番号が表示されます。

```
Track Move   ➔Group01
```

再生中の曲がグループに属していない場合は曲番が表示されます。

```
Track Move   ➔Track001
```

2
- **グループの外へ曲を移動したい場合、またはディスクにグループがない場合**

  手順3へ進む。

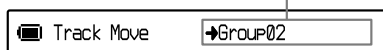
- **同じグループ内で曲を移動する場合**

  グループ番号が表示されている状態（上記手順1の状態）でジョグレバーを押す。

- **別のグループへ曲を移動する場合**

  ジョグレバーをFF/FR側に動かして移動先のグループ番号を選び、押して決定する。

移動先のグループ番号を表示

```
Track Move   ➔Group02
```

3 ジョグレバーをFF/FR側に動かして移動先の曲番を選び、押して決定する。

移動先のグループ番号と曲番
（例：グループ02の10番目に移動する場合）

```
Track Move   ➔GP02 -Track010
```

ご注意

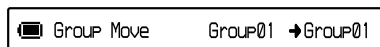
グループの中の曲を全部移動した場合、そのグループは自動的にディスクから消去されます。

グループの順番を並べ換える

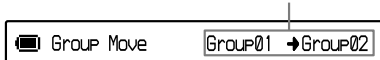
本体でのみ操作できます。

1 移動したいグループ内の曲を再生中または停止中に、メニュー（☞49ページ）で「Edit」－「Move」－「Group Move」を選ぶ。

移動するグループ番号が表示されます。

```
Group Move   Group01 ➔Group01
```

2 ジョグレバーをFF/FR側に動かして移動先のグループ番号を選び、押して決定する。

移動先のグループ番号を表示
（例：グループ01を2番目に移動する場合）

```
Group Move   Group01 ➔Group02
```

名前をつける（タイトル入力）

再生中と停止中に名前をつけることができます。

- 曲名、アーティスト名、アルバム名をつけるとき：
  名前をつけたい曲の再生中、または停止中に操作します。
- グループ名をつけたいとき：
  名前をつけたいグループに属する曲の再生中、または停止中に操作します。

リモコンでのみ操作できます。

入力できる文字の種類

- カタカナ（半角）
- アルファベットA～Zの大文字、小文字
- 数字0～9
- 記号（Hi-MDモードの場合と、MDモードの場合で入力できる記号が異なります。）

入力できる文字数

曲名、グループ名、アーティスト名、アルバム名、ディスク名にそれぞれ約200文字（全文字種混在の場合）

1枚のディスクに入力できる文字数

- Hi-MDモードの場合：約55,000文字
- MDモードの場合：約1,700文字

文字数によって登録できるタイトル数は異なります。

ご注意

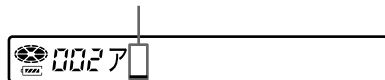
- ディスク名やグループ名に「abc//def」のように「//」を文字の間に入れると、グループ機能が使えなくなる場合がありますのでご注意ください（MDモードの場合のみ）。
- リモコンで漢字を表示することはできますが、漢字で名前をつけることはできません。SonicStageソフトウェアを使うと、漢字の入力ができます。
- パソコン機種依存文字（①、（株）など）を表示することはできません。

1 **メニュー（☞49ページ）で「タイトル入力」を選んだあと、つける名前を選ぶ。**

つける名前	表示
曲名	曲名入力
グループ名	グループ名入力
アーティスト名*	アーティスト名入力
アルバム名*	アルバム名入力
ディスク名	ディスク名入力

* Hi-MDモードの場合のみ表示されます。

2 **VOL +/–つまみを回してお好みの文字を表示して、ジョグレバーを押す。**

ジョグレバーを押すと、文字が確定し、カーソルが次の文字枠で点滅する。

文字入力に使うボタンと機能は次の通りです。

機能	操作
カーソルを左右に移動する。	ジョグレバーを⏮/⏭側に動かす。
文字を確定する。	ジョグレバーを押す（▶II/ENT）。
文字の種類を切り換える（ア→A→a→0）。	P MODE/↻を押す。

機能	操作
大文字・小文字を切り換える（A←→a）。濁点をつける（カ←→ガ）。	SOUNDを押す。
1文字分の空白を入れる。	＋を押す。
1文字削除する。	–を押す。

3 手順2を繰り返して名前をつける。

4 ジョグレバーを2秒以上押す。

名前が決定します。

ご注意

- カナ入力したタイトルを、カナ表示に対応していないほかのMD機器で表示させると、ローマ字表記になります。その際、先頭と最後に「ˆ」がつきます（MDモードの場合のみ）。
- ほかの機器でつけた200文字以上の曲名やグループ名、アーティスト名、アルバム名、ディスク名を本機で書き換えることはできません。
- SonicStageソフトウェアなどで入力した漢字など全角文字の入った名前を編集することはできません。

各種設定メニュー

メニューで「Option」（リモコンでは「各種設定/Option」）を選びます。
本体とリモコンで設定できます。（　）はリモコンの表示です。

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
AVLS[1] （AVLS）	Off ● (AVLS 切/AVLS Off)	音量の制限無しで、操作に合わせて音量が変わります。
	On （AVLS 入/AVLS On）	音もれや耳への圧迫感軽減のため、音量を一定レベル以上に上げようとすると「AVLS NO VOL OPERATION」と表示され、それ以上音量が上がりません。
Beep （操作確認音/Beep）	Off （確認音 切/Beep Off）	操作時の確認音(ピッなど)は鳴りません。
	On ● （確認音 入/Beep On）	操作時の確認音が鳴ります。
EL Light[2]	Auto Off	操作後10秒経過すると本体の表示窓が暗くなります。その後何も操作をせずに5秒経過すると、電池残量表示以外の表示が自動的に消灯し、電池の消耗を抑えます。
	On ●	動作中、本体の表示窓が常に点灯します。

次のページにつづく

項目	設定内容（●：お買い上げ時の設定）	
バックライト設定/Backlight[3)]	オート ● （Auto）	リモコンの表示窓のバックライトが、操作直後に数秒間点灯します。また、表示をスクロールしている間、点灯します。
	常時点灯（On）	本体が動いているときは、常にバックライトが点灯します。
	常時消灯（Off）	常にバックライトが消灯し、電池の消耗を抑えます。
Quick Mode （クイックモード/ Quick Mode）	Off （クイックモード 切/ Quick Off）	電池の消費を防ぐために、一定時間操作がなかった場合は、自動的に内部の電源が切れます（オートパワーオフ機能）。
	On ● （クイックモード 入/ Quick On）	自動的に内部の電源は切れません。再生ボタンを押してすぐに、再生が始まります。
Disc Mode （ディスクモード/ Disc Mode)	Hi-MD ●	従来の60/74/80分ディスクに、音楽や静止画など何も保存されていないとき、Hi-MDモードにします。
	MD	従来の60/74/80分ディスクに、音楽や静止画など何も保存されていないとき、MDモードにします。 Hi-MDに対応していないほかの機器でもお使いになる場合に、設定してください。
Audio Out[2)]	Headphone ●	本体のΩ/LINE OUTジャックにリモコンをつなぐとき、またはヘッドホンを直接つなぐときに設定します。
	Line Out	本体のΩ/LINE OUTジャックに別売りの接続コードをつないで、ほかのオーディオ機器で本機の再生音を聞いたり、録音したりするときに設定します。
Clock Set[2)]	時計（年、月、日、時間）を合わせます（☞60ページ）。	
FW Version[2)]	本機のファームウェアバージョンを表示します。	
表示言語/ Language[3)]	日本語 ●	リモコンの表示窓に表示される言語を日本語にします。
	English	リモコンの表示窓に表示される言語を英語にします。

[1)] AVLSとは「オートボリュームリミッターシステム」のことです。

[2)] 本体用の設定です。リモコンでは設定できません。

[3)] リモコン用の設定です。本体では設定できません。

本体の表示窓の設定（「EL Light」）について

ご注意

- 「EL Light」の設定で「Auto Off」を選んでいても、次の場合は表示は消えません。
  — コンセントにつないでいる
  — 充電中
  — パソコンとつないでいる
  — メニュー操作中
  — 早戻し・早送り・頭出し中
  — ディバイドリハーサル中
  — メッセージの表示中
- 「EL Light」の設定に関わらず、録音中に電池残量が少なくなると（電池残量表示が ▭ の状態）、電池の消耗を抑えるために画面表示が暗くなります。
- 「EL Light」の設定が「Auto Off」のときでも、動作ランプは消灯しません。

クイックモードの設定（「Quick Mode」）について

ご注意

「Quick Mode」の設定を「On」にすると、画面に何も表示されていないときでも、本体内部では常に電源が入っている状態になっています。電池を全て消耗すると、自動的に本体内部の電源が切れます。

ディスクモードの設定（「Disc Mode」）について

ご注意

- Hi-MD規格専用1GBディスクをお使いのときも、「Disc Mode」の設定で「MD」を選べますが、使える動作モードはHi-MDモードのみです。
- SonicStageソフトウェアで60/74/80分ディスクをフォーマットした場合、または60/74/80分のブランクディスクを本機でお使いになるときの動作モードは、「Disc Mode」の設定に従います。

🎧/LINE OUTジャックの出力設定（「Audio Out」）について

ご注意

- 「Audio Out」の設定が「Line Out」になっていると、バーチャルサラウンドや6バンドイコライザ、ダイナミックノーマライザは働きません。
- 付属のリモコン付きヘッドホンをつないでいるときは、「Audio Out」の設定を「Line Out」にすることができません。
- ヘッドホンを直接本体につなぐときは、「Audio Out」の設定を「Headphone」にしてください。
- 「Audio Out」の設定が「Line Out」になっているときは、ヘッドホンを接続しないでください。ヘッドホンからの再生音が非常に大きくなります。
- 「Audio Out」の設定を「Headphone」にして、アクティブスピーカーなどの機器を接続するときは、「Beep」の設定を「Off」にしてからお使いください。

時計を合わせる

時計を合わせておくと、録音日時が自動的に記録されます。録音日時は一度時計を合わせると常に記録されるようになります。本体でのみ操作できます。

1 停止中に、メニュー（☞49ページ）で「Option」–「Clock Set」を選ぶ。

2 VOL +/–を押して年を合わせ、ジョグレバーを押して決定する。

月の数字が点滅します。

3 手順2を繰り返して月、日、時、分を合わせる。

分を合わせて決定すると、時計が0秒からスタートします。

現在の日時を表示するには

停止中または録音中にDISPLAY/MENU（リモコンではDISPLAY）を繰り返し押します。

24時間表示、12時間表示を切り換えるには

時計合わせ中にDISPLAY/MENUを押します。

時計の設定を保つために

一度時計を合わせるとコンセントや充電池など、いずれかの電源がつないであれば、時計の設定は保たれます。ただし、いずれの電源もつないでいない、または充電池がすべて消耗すると、約3分で時計の設定はお買い上げ時の状態に戻ります。

💡

- 時計合わせ中にジョグレバーをFF/FR側に動かすと、設定する項目（年、月、日など）を選ぶことができます。
- パソコンに接続し付属のSonicStageソフトウェアを使うと、時計の設定はパソコンの時計に合わせて自動的に設定されます（本機の動作モードが「Hi-MDモード」の場合のみ）。

ご注意

- 特に大切な録音で録音日時を記録したいときは現在の日時を表示させ、時計が合っていることを確認してください。
- 月に3分程度の誤差が生じることがあります。
- 本体で時計の設定がされていても、パソコンから転送した曲には録音日時が記録されません。
- 本機とパソコンを接続しているときに、パソコンがシステムサスペンド、スリープ（スタンバイ状態）、システムハイバネーション（休止状態）のモードへ移行すると、本体への電源が供給されなくなります。このため、本体に充電池が入っていない、または電池残量がない状態でこれらのモードに移行すると、本体の時計設定は保持されなくなります。

故障かな？と思ったら

本機をご使用中にトラブルが発生した場合は、サービス窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れにしたがってチェックしてください。メッセージ一覧（☞67ページ）も合わせてご覧ください。メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

1 この「故障かな？と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べる。
本書の手順の中や「メッセージ一覧」にも、様々な情報があります。該当する項目を調べてください。

2 「パーソナルオーディオ・カスタマーサポート」のホームページ http://www.sony.co.jp/support-pa/ で調べる。
最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。

3 それでもトラブルが解決しないときは、ソニーの相談窓口（☞87ページ）またはお買い上げ店に相談する。

充電する

症状	原因 / 処置
充電ができない、または充分に充電ができない。	➜ 充電池を正しく入れていない、またはACパワーアダプターやACコード、USBケーブルを正しく接続していない。充電池を正しく入れ直す、または正しく接続する。 ➜ 充電池が入っていない。充電池を入れる（☞14ページ）。 ➜ 充電池が消耗しきっている。充電する。1分程しても充電が始まらないときは、もう一度USBケーブルをつなぎ直す。 ➜ 充電している場所の温度が低すぎる、または高すぎる（「CHARGE ＋5℃～＋35℃ /41F-95F」が表示される）。充電は＋5℃～＋35℃の場所で行う。 ➜ ACパワーアダプターを使って充電中に本体やリモコンを操作したり、USBバスパワー充電中にパソコンからの操作をすると、充電にかかる時間が長くなる。早く充電したい場合は操作をしない。 ➜ USBケーブルを本体につなぐときに、本体のジョグレバーやボタンなどに触れた。
使っていなかったのに充電池が消耗した。	➜ 「Quick Mode」の設定が「On」（リモコンでは「クイックモード」－「クイックモード 入」）になっていた（☞58ページ）。「Quick Mode」の設定が「On」の場合、表示窓に何も表示されていないときでも、本体内部では常に電源が入っている状態になっているため、電池の持続時間が短くなる。充電が充分ではない状態でかつ、設定が「On」になっていると、使わない間に充電池が消耗してしまうことがある。
充分に充電しても、通常の半分程の時間しか使えない、または充電が終了するまでの時間表示が通常の半分ほどになった。	➜ 電池が寿命のため容量が低下した。新しい充電池（別売り）と交換する。
充電中に本体が熱くなる。	➜ 故障ではありません。

パソコンとつないで使う

症状	原因 / 処置
本機がパソコンに認識されない。	➔ USBケーブルがきちんと接続されていない。きちんと接続し直す（☞22ページ）。それでも認識しない場合は、接続をはずし、パソコンを再起動してから接続し直す。 ➔ USBハブを使用している。パソコンのUSB端子に直接接続する。 ➔ 通信に失敗している。USBケーブルを抜き、2秒以上経過してからもう一度接続する。それでも認識されない場合は、接続をはずし、パソコンを再起動してから接続し直す。 ➔ Windows 2000 Professionalの場合、本機と接続したままでパソコンの電源を入れたり再起動して、その後USBケーブルを抜くと、次に接続した際に本機がパソコンに認識されないことがある。USBケーブルを抜き、パソコンを再起動してから接続し直す。Windows Updateを行う。 ➔ 本機にディスクが入っていない。ディスクを入れる。 ➔ ソフトウェアのインストールに失敗している。接続をはずし、インストールし直す（☞21ページ）。
本機がWindowsのエクスプローラ上で認識されない。	➔ MDモードで記録されたディスクが入っている。Hi-MDモードでお使いのディスクを入れる。 ➔ メニューの「Disc Mode」（リモコンでは「ディスクモード」）が「MD」に設定された状態で、60/74/80分のブランクディスクが入っている。「Disc Mode」の設定を「Hi-MD」にする（☞58ページ）。
パソコンにつないでも、本機の表示窓に接続中の表示が出ない。	➔ SonicStageの認証を行うために、時間がかかることがある。しばらく待つ。 ➔ パソコン上でほかのアプリケーションが起動している。しばらくしてから接続し直す。それでも解決しない場合は接続をはずし、再起動する。
「RECONNECT USB」が表示されている。	➔ 本機がパソコンに認識される前に操作をした。接続し直す（☞22ページ）。
USBバスパワー充電ができない。	➔ 充電池入れのふたが閉まっていない。きちんと閉める。 ➔ 充電している場所の温度が高すぎる。+5℃～ +35℃の場所で充電する。
USBバスパワー充電が充分にできない。	➔ USBバスパワー充電では充電中に操作をすると充電にかかる時間が長くなる。早く充電したい場合は操作をしない。
インストールできない。	➔ 対応のOS以外のOSを使っている（☞20ページ）。 ➔ すべてのWindowsのプログラムが終了していない。ほかのプログラムが起動した状態でインストールを行うと、不具合が生じることがある（特にウィルスチェックソフトは負荷が大きいため必ず終了する）。 ➔ ハードディスクの容量が足りない（200 MB以上必要）。
インストール作業が止まっているように見える。	➔ 警告などのメッセージダイアログが、インストール画面の後ろに隠れている。[Alt]キーや[Tab]キーを押すとメッセージが表示されるので、メッセージに従って操作する。メッセージが表示されない場合は、インストール作業が行われているため、そのまま待つ。
インストール時に画面上のバーが動いていない／CDドライブやハードディスクのアクセスランプが数分間点灯していない。	➔ パソコンがインストール作業を続けている。そのまま待つ。（お使いのパソコンやCDドライブによっては、インストール終了まで30分以上かかることがある。）

症状	原因 / 処置
MD Simple Burnerを使っているとき、RECスイッチをずらしても録音できない。	→ パソコンと接続されていない。USBケーブルで接続する。 → パソコンのCDドライブに音楽CDが入っていない。音楽CDを入れる。 → ディスクに録音できる容量が足りない。ほかのディスクと取り換える。
正常に動作しない。	→ USBハブを使用している。パソコンのUSB端子に直接接続する。 → 振動のある場所で使っている。振動のない、安定した場所で使う。
音楽データ以外のデータを保存できない。	→ SonicStageまたはMD Simple Burnerソフトウェアが起動している。SonicStageまたはMD Simple Burnerソフトウェアを終了してから操作する。
パソコンから転送した曲の演奏時間が、パソコン上の演奏時間と一致しない。	→ 本体とパソコンの計算誤差のため、演奏時間が一致しない。
ディスクの録音可能時間いっぱいに音楽データを転送できない。（例：80分ディスクに対してLP2ステレオ録音で160分転送できない。）	→ システム上の制約で、録音は何秒かの単位でされるため、短い曲をたくさん録音すると、録音部分が増えて合計時間と合わなくなる（☞81ページ）。
パソコンで表示されるディスクの容量と、ディスクに表示されている容量に差がある。	→ ディスク容量（☞31ページ）は、パソコン上では2進法で表現されるが、ディスクなどの記録媒体では10進法で表現されるため、差が生じる。
本体の操作ができない。	→ パソコンと接続しているときは、本体を操作できない。
ふたが開かない。	→ 本体に充電池が入っていない状態、または充電池が消耗している状態で、パソコンからの転送/録音/編集中にUSBケーブルをはずした。USBケーブルをつなぐ、または充電した電池を入れ、■・CANCELを押す。

録音する

症状	原因 / 処置
ディスクの空き容量が2.0 MBあるのに、録音残り時間が「R 00:00」と表示され、録音できない。	→ システム上の制約で2.0 MBは予備領域の容量です。
録音すると必ずグループができる。	→ グループ録音（「Group REC」）の設定が「On」になっている。「Off」にする（☞50ページ）。
曲のはじめの数秒が録音されない。	→ 本体の動作ランプが消える前に録音を始めると、曲のはじめの数秒が録音されないことがある。動作ランプが消えるのを確認してから録音する。
新しいグループが作成されない。	→ システム上の制約で、入力した文字数の合計が約1,700文字を超えた場合、グループで録音しても新しいグループは作成されない（MDモードの場合のみ）（☞ 82ページ）。

次のページにつづく ➡

症状	原因 / 処置
録音できない。	➔ 音源と正しくつながれていない。つなぎ直す（☞32、38ページ）。 ➔ ポータブルCDプレーヤーからデジタル出力が出ていない。ポータブルCDプレーヤーを家庭用電源につなぎ、音飛びガード機能（ESPなど）を「切」にする。 ➔ 抵抗入りの接続コードを使っている（アナログ入力録音時）。抵抗が入っていない接続コードを使う（☞12ページ）。 ➔ 録音レベルが小さすぎる（手動調節時）。録音レベルを調節する（☞52ページ）。 ➔ パソコンと接続している。パソコンとの接続をはずす。 ➔ 録音中に電源が抜かれた、または停電になった。それまでの録音は消えているため、初めから録音し直す。 ➔ ディスクの残り時間が48秒以下の場合、録音できないことがある（「DISC FULL」が表示される）。
録音終了後、ふたが開かない。	➔ 録音終了後は「SystemFILE WRITING」表示が消えるまでふたは開かない。
最大録音可能時間に達していなくても、「TRACK FULL」表示が出てふたが開かない。	➔ システム上の制約で、Hi-MDモードでお使いのディスクで2,047曲、MDモードで254曲録音されると、それ以上は録音できない（☞80ページ）。不要な曲を消して録音する。
曲を消しても録音できる残り時間が増えない。	➔ システム上の制約で短い曲を何曲か消しても録音できる残り時間が増えないことがある（MDモードの場合のみ）（☞81ページ）。
ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、録音可能時間（60/74/80分）に一致しない。	➔ システム上の制約で、録音は何秒かの単位でされ、曲と曲の間に何秒かの無音部分を自動的に挿入するため、短い曲をたくさん録音すると、録音部分が増えて合計時間と合わなくなる（MDモードの場合のみ）（☞81ページ）。
曲数も録音時間も余裕があるのに「TRACK FULL」表示が出て録音が止まる。	➔ システム上の制約で、同じディスクで録音、消去を繰り返したためと思われる。曲を追加するには不要な曲を消して録音する（☞80ページ）。

再生する

症状	原因 / 処置
通常の再生ができない。	➔ リピートモードが設定されている。解除する（☞44ページ）。 ➔ 再生モードを変えた。通常再生に戻してから再生を始める（☞43ページ）。
ディスクの1曲目から再生が始まらない。	➔ 前回再生したとき、ディスクの途中で止めた。一度停止させ、ジョグレバーを2秒以上押したままにする（☞40ページ）。
再生中に音がとぎれる。	➔ 振動の多い場所に置いている。振動の少ない場所で使う。 ➔ 1曲の録音時間が極端に短い（☞81ページ）。
瞬間的な雑音が聞こえる。	➔ LP4録音した曲では、圧縮方式の特性上、録音元の音源によってはごくまれに瞬間的な雑音が発生する。
雑音が多い。	➔ テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。テレビなどから離れた場所で使う。

症状	原因 / 処置
録音したディスクを再生すると音が小さい。	→ アナログで録音した、または抵抗の入っている接続コードを使って録音した。正しい接続コードを使う（☞12ページ）。 → 録音レベルが小さかった。録音レベルを手動で調節して録音する（☞52ページ）。
音が大きくならない。	→ 「AVLS」の設定が「On」（リモコンでは「AVLS 入」）になっている。「Off」（リモコンでは「AVLS 切」）にする（☞57ページ）。
ヘッドホンから音が出ない。	→ リモコン付きヘッドホンがしっかり差し込まれていない。本体にヘッドホンプラグをしっかり差し込む。 → プラグが汚れている。ヘッドホンとリモコンのプラグ部分を、乾いた布などで拭く。
ほかの機器でディスクを再生できない。	→ Hi-MDに対応していない機器で再生しようとした。Hi-MDモードのディスクは、Hi-MD対応の機器でのみ再生できる。
編集した曲を再生しながら早送り、早戻しすると、音がとぎれる。	→ システム上の制約で、再生しながら早送り、早戻しするときは通常より高速で再生するため、音がとぎれることがある。
ラジカセやアンプなどを使って録音した物を再生する、またはラジカセやアンプなどをつないで再生すると、片方の音が出ない。	→ ラジカセやアンプなどにモノラルのコードを使って接続すると、Rチャンネルの音が出ない。ステレオのコードを使う（☞77ページ）。
MP3の曲を再生できない。	→ 本機で再生できるMP3は、SonicStageを使って転送したMPEG-1 Audio Layer-3で、サンプリング周波数が32/44.1/48 kHzの曲のみ。
曲の録音年月日が表示されない。	→ 録音年月日が記録されている場合に、表示される。パソコンから転送した曲の場合は表示されない。
動作ランプがゆっくり点滅している。	→ 再生中や再生一時停止中に編集した内容の書き込み予約を意味している。再生を停止すると、編集した内容がディスクに書き込まれ、動作ランプが消灯する。

編集する

症状	原因 / 処置
編集終了後、ふたが開かない。	→ 編集終了後は「SystemFILE WRITING」表示が消えるまでふたは開かない。
編集できない。	→ 編集中に電源が抜かれた、または停電になった。編集をやり直す。
音楽データ以外のデータが消去できない。	→ 音楽データ以外のデータはメニューの「Erase」機能を使っても消去できない。パソコンに接続して内容を確認し、消去してもよい場合はパソコンとの接続をはずし、「Format」機能を使ってディスクを初期化する（☞53ページ）。
曲をつなぐことができない。	→ システム上の制約で、つなごうとする曲が短い場合、前の曲とつなぐことができないことがある（MDモードの場合のみ）。 → 異なる録音モードで録音された曲はつなぐことができない（☞81ページ）。
他機種で編集ができない。	→ Hi-MDやMDLP録音モードに対応していない機器で編集しようとした。Hi-MDやMDLPモードに対応している機器を使う。

その他

症状	原因 / 処置
操作を受けつけない、または正しく動作しない。	→ 充電池を充電していない。充電する。 → 音量が小さくなっている。音量を上げる。 → ディスクが入っていない。ディスクを入れる。 → HOLD機能が働いている。HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらして、HOLD機能を解除する（☞16ページ）。 → ふたがしっかりと閉まっていない。カチッと音がするまでふたを閉める。 → 結露（本機を寒い屋外から暖かい室内に持ち込んだ直後などに、内部に水滴が付着）している（☞72ページ）。ディスクを取り出して、そのまま数時間おく。 → ACパワーアダプターやACコード、USBケーブルがしっかり差し込まれていない。しっかり差し込む。 → 電池が消耗している（「LOW BATTERY」表示が点滅または何も表示されない）。充電する（☞14ページ）。またはコンセントにつなぐ。 → 損傷しているディスク、または録音や編集の内容などの情報が正しく入力されていないディスクが入っている。ディスクを入れ直したり、録音し直す。それでもエラー表示が出るときは、ほかのディスクと取り換える。 → 内部システムが誤動作している。または、使用中、衝撃や過大な静電気、落雷による電源電圧の異常などのために強いノイズを受けている。すべての電源をはずし、USBケーブルを抜く。約30秒間経過してから、電源を接続する。
本体の表示窓が点灯しない。	→ メニューの「EL Light」設定が「Auto Off」になっている状態でリモコンで操作している。本体で操作する。
60/74/80分ディスクがSonicStageソフトウェアで初期化した、または選択した動作モードになっていない。	→ 60/74/80分のブランクディスクを本機で使う場合、動作モードはメニューの「Disc Mode」（リモコンでは「ディスクモード」）の設定に従う。希望の動作モードに設定する（☞58ページ）。

メッセージ一覧

症状	原因 / 処置
ACCESS	→ 本機がパソコンに接続されている状態で、ディスクにデータを書き込んでいる、またはディスクにあるデータを読み込んでいる。しばらく待つ。
ACCESS ERROR	→ 本機がパソコンに接続されている状態で、ディスクへのアクセスに失敗した。つなぎ直す。ディスクを入れ直す。
AUDIO FILE ERROR	→ 録音や再生ができないディスクが入っている。音楽データまたは管理ファイルが壊れている。ほかのディスクと取り換える。
AVLS NO VOL OPERATION	→ 「AVLS」の設定が「On」（リモコンでは「AVLS 入」）になっているので、これ以上音量をあげられない（☞57ページ）。「Off」（リモコンでは「AVLS 切」）にする。
BLANKDISC	→ 何も録音、保存されていないディスクが入っている。
BUSY WAIT A MOMENT	→ ディスクの情報を読んでいる。録音または編集の内容の処理をしている。しばらく待つ。1分ほどかかる場合がある。
CANNOT EDIT	→ 録音モードの異なる曲を1つにつなげようとした。 → ディスクの先頭曲を選んで、曲をつなげようとした。 → トラックマークの上にトラックマークをつけようとした。 → 曲をつなげると1曲の長さが999分59秒を超える。つないだ後、1曲の長さが999分59秒を超える場合、曲をつなぐことはできない。 → 録音中に本体メニューの「Edit」を選んだ、またはリモコンメニューの「タイトル入力（Title Input）」を選んだ。 → 停止中以外でメニューの「Format」を選んだ。本機を停止する。 → 本機で編集できない文字が含まれている名前を変更しようとした。
CANNOT OPERATE	→ シンクロ録音中に本体の❚❚またはT MARK、リモコンのP MODE/ ⟲を押した。 → スピードコントロール機能を使用中にリモコンのSOUNDを押した → MDモードでお使いのディスクでディスク名以外のタイトル編集中、またはHi-MDモードでお使いのディスクでタイトル編集中に、本体のT MARKボタンを2秒以上押した（☞82ページ）。
CANNOT PLAY	→ 再生制限がかかっている曲を再生しようとした。 → 本機では再生できないMP3の曲を再生しようとしている。本機で再生できるMP3は、SonicStageを使って転送したMPEG-1 Audio Layer-3で、サンプリング周波数が32/44.1/48 kHzの曲のみ。
CANNOT SET	→ 録音中または録音一時停止中に本体メニューの「REC Mode」、「Group REC」を選んだ、またはリモコンメニューの「スピードコントロール（SpeedControl）」を選んだ。 → デジタル録音中、録音一時停止中にメニューの「Time Mark」を選んだ。 → シンクロ録音一時停止中にメニューの「REC Level」を選んだ。 → 停止中または録音一時停止中ではないときに、メニューの「REC Level」を選んだ。 → メニューの「REC Level」が「Manual」に設定されているときに、「MIC AGC」を選んだ。

次のページにつづく

症状	原因 / 処置
CHARGE ＋5℃～＋35℃ /41F-95F	→ 指定温度ではないところで充電しようとした。指定温度の範囲内（＋5℃～＋35℃）で充電する。
DATA SAVE	→ 録音や編集した内容をディスクに書き込んでいる。しばらく待つ。（衝撃を与えたり、電源を抜いたりしない。）
DC IN TOO HIGH	→ 電源電圧が高い（指定のACパワーアダプター、ACコードを使っていない）。指定のACパワーアダプター、ACコードを使う。
DISC FULL	→ ディスクの空き容量がないのに、録音しようとした。
END	→ 再生中、ジョグレバーをFF（リモコンでは ▶▶I）側に動かしているときに、再生対象の最後の曲の終わりまで到達した。またはディスクの最後に到達しているときにジョグレバー（▶/ENT）（リモコンでは ▶II/ENT）を押した。
ERROR	→ 内部システムが誤動作している。または、使用中、衝撃や過大な静電気、落雷による電源電圧の異常などのために強いノイズを受けている。すべての電源をはずし、USBケーブルを抜く。約30秒間経過してから、電源を接続する。
FORMAT ERROR DISC	→ 本機が対応していないフォーマットのディスクが挿入された。MDまたはHi-MDフォーマットのディスクを入れる。 → パソコンでSonicStage以外でフォーマットされたディスクが挿入された。パソコンでフォーマットするときは必ずSonicStageを使ってフォーマットする。
HOLD	→ HOLD機能が働いている。HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらして、HOLD機能を解除する（☞16ページ）。
IN MENU	→ 本体でメニュー操作中、リモコンで操作した。本体で操作する。リモコンでメニュー操作中、本体で操作した。リモコンで操作する。
LINE OUT NO VOL OPERATION	→ メニューの「Audio Out」が「Line Out」に設定されているとき、音量を調節しようとした。「Audio Out」の設定を「Headphone」にする（☞58ページ）。
LOW BATTERY	→ 電池が消耗した。充電池を充電し直す（☞14ページ）。
MEMORY OVER	→ 振動のあるところで録音を始めた。振動のないところで行う。
NO BookmarkedTRACK	→ ブックマーク登録している曲が入っていないディスクで、再生モードを「ブックマーク再生（BookmarkPlay）」にした。ブックマークをつける（☞43ページ）。
NO DIGITAL COPY	→ シリアルコピーマネジメントシステム（SCMS）により、ダビングは禁止されている。アナログ録音する（☞38ページ）。
NO DISC	→ ディスクが入っていない。ディスクを入れる。
NO GROUP	→ グループがないディスクで本体メニューの「Group Erase」または「Group Move」を選んだ。リモコンメニューの「タイトル入力（Title Input）」–「グループ名入力（Group）」を選んだ。
NO INPUT SIGNAL	→ デジタル信号が途切れた。接続を確かめる。アナログ入力するときは無視する。
NO TRACK	→ 何も録音されていないHi-MDモードのディスクが入っている。
NON GROUPED TRACK	→ グループに入っていない曲を選んだ状態で、本体メニューの「Group Erase」または「Group Move」を選んだ。リモコンメニューの「タイトル入力（Title Input）」–「グループ名入力（Group）」を選んだ。

症状	原因 / 処置
P/B ONLY DISC	→ 再生専用ディスクに録音・編集しようとした。録音用ディスクを入れる。
PC--MD	→ 本機がパソコンに接続されている状態で、本体またはリモコンの操作をした。パソコンとの接続をはずす（☞23ページ）。
PLAY MODE	→ リモコンで再生モードの選択中に本体の操作をした。
PROTECTED DISC	→ ディスクが誤消去防止状態になっている。誤消去防止つまみを戻す（☞71ページ）。
PUSH STOP BUTTON	→ 本機がパソコンに接続されている状態で、本機がディスクの情報を記録しているときに、OPENボタンを押してふたを開けようとした。「SystemFILE WRITING」表示が消えるのを待つ。
READ ERROR	→ ディスクの情報を正しく読み取れなかった。ディスクを入れ直す。
REC ERROR	→ 正しく録音できなかった。振動のない場所で録音し直す。 → ディスクがひどく汚れている、またはディスクが規格外である。ディスクを交換し、録音しなおす。
RECONNECT USB	→ 本機がパソコンに認識されていない状態で操作した。USBケーブルを接続し直す。
REHEARSAL	→ 本体でディバイドリハーサル中（☞47ページ）にリモコンで操作をした。本体で操作する。
SORTING	→ 再生モードで「アーティスト再生（Artist Play）」または「アルバム再生（Album Play）」を選んだ後、ディスクの中の曲を並べ換えている。しばらく待つ。
SOUND	→ リモコンでサウンド設定をしているときに本体で操作をした。リモコンで操作する。
STANDBY	→ 本機がパソコンに接続されている状態で、一度データをディスクに書き込んだ後、すぐに次のデータの書き込みを始められる状態になっている。「STANDBY」表示が消えているときにデータを書き込もうとすると、書き込みを始めるまでに少し時間がかかる。
SystemFILE WRITING	→ システムファイルを書き込んでいる。しばらく待つ（☞75ページ）。
TEMP OVER REC STOP	→ 録音中、本機の温度が高くなりすぎたため、録音を停止した。涼しいところでしばらく休ませる。
TitleFULL	→ 曲名やグループ名、ディスク名などを200文字を超えて入力しようとした。名前の合計約55,000文字（Hi-MDモードの場合）または約1,700文字（MDモードの場合）を超えて入力しようとした。名前を短くする（☞56ページ）。
TOC DATA ERROR	→ ディスク情報を正しく読み取れなかった。ほかのディスクと取り換える。
TRACK FROM PC NO EDIT	→ パソコンから転送した曲やMD Simple BurnerでHi-MDモードで録音した曲を、分けたりつなげたりしようとした。
TRACK FROM PC NO REC	→ パソコンから転送した曲やMD Simple BurnerでHi-MDモードで録音した曲の間に、挿入録音しようとした。
TRACK FULL	→ 曲番の合計がHi-MDモードでお使いのディスクで2,047、MDモードでお使いのディスクで254を超える曲数を録音しようとした。曲を削除する（☞53ページ）。

使用上のご注意

分解しないでください

ミニディスクレコーダーに使われているレーザーが目にあたると危険です。

光学ピックアップのレンズに触れないでください

ディスクを読み取るレンズが汚れると、音飛びが起きたり、再生できなくなったりする場合があります。また、ほこりがつかないように、ディスクの出し入れ以外はふたを必ず閉じておいてください。

AC パワーアダプター、AC コードについて

- AC パワーアダプター、AC コードは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- AC パワーアダプター、AC コードをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  - －本機を棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に置かないでください。
  - －火災や感電の危険をさけるために、水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶など、水の入ったものを置かないでください。

日本国内での充電池の廃棄について

Li-ion

リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

充電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店に関するお問い合わせ先については、有限責任中間法人 http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。誤作動したり、記録できなくなるだけでなく、ディスクが使えなくなったり、保存済みのデータが壊れることがあり、故障の原因になります。
- リモコンやヘッドホンのコードを強く引っぱらないでください。
- 次のような場所には置かないでください。
  - －温度が非常に高いところ（60℃以上）
  - －直射日光のあたる場所や暖房器具の近く
  - －窓を閉めきった自動車内（特に夏期）
  - －風呂場など湿気の多いところ
  - －磁石、スピーカー、テレビなど磁気を帯びたものの近く
  - －ほこりの多いところ
- 温度が高いところ（40℃以上）や低いところ（0℃以下）では表示が見にくくなったり、表示の変わりかたがゆっくりになることがあります。常温に戻れば元に戻ります。
- キャリングポーチには、本体と一緒に硬いものを入れないでください。塗装がはがれたり、傷の原因になります。
- 読み込み中や書き込み中にディスクを抜いたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。正常に録音されなかったり、録音した音楽データが失われることがあります。
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、正常に録音されなかったり、録音した音楽データが失われることがあります。
- この取扱説明書で説明している以外の変更や改造を行った場合、本機を使用できなくなることがありますので、ご注意ください。

温度上昇について

充電中および長時間お使いになったときに、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。

動作音について

本機は省電力の動作方式になっています。そのため、動作中は断続的に動作音がしますが、故障ではありません。

充電について

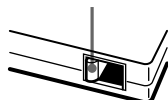
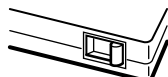
- 充電には必ず、付属のACパワーアダプター、ACコード、USBケーブルをお使いください。
- 充電中は、本体が熱くなりますが、危険はありません。
- 充分に充電しても使える時間が通常の半分くらいになったときは、新しい充電池と交換してください。
- 長い間お使いにならないときはACコードをコンセントから抜いてください。さらに、充電池を取り外して湿度の低い涼しい場所で保管してください。保管する際は、充電池の劣化を防ぐため、充電池を使い切った状態や、100%充電の状態で保管しないでください。

ディスクの取り扱いについて

- ミニディスク自体はカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に扱えるようになっています。ただし、カートリッジのよごれや反りなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。
  - シャッターを手で開けない
    無理に開けるとこわれます。

  - 持ち運ぶときや保管するときはケースに入れる
  - 置き場所について
    直射日光があたるところなど温度の高いところや湿度の高いところには置かないでください。また、砂浜など、ディスクに砂が入る可能性があるところには放置しないでください。
  - 定期的にお手入れを
    カートリッジ表面についたほこりやゴミを、乾いた布でふきとってください。
- ディスクに付属のラベルは所定以外の位置に貼らないでください。必ず、ラベル用のくぼみに合わせてしっかり貼ってください。

誤消去防止つまみについて

録音したものを誤って消さないために、誤消去防止つまみをずらして穴が開いた状態にします。つまみをずらして穴が開いた状態にすると、録音や編集ができません。録音や編集をするときはつまみを閉めます。

万一故障した場合は、内部を開けずに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。（ディスクが本体に入っているときに故障した場合は、故障原因の早期解決のため、ディスクを入れたままご相談されることをおすすめします。）

ヘッドホンについて

- 付属のヘッドホンをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはソニーの相談窓口（☞87ページ）に相談してください。
- 付属のヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎてまわりの人に迷惑にならないように気をつけましょう。
  雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

リモコンについて

付属のリモコンは本機専用です。また、他機種に付属のリモコンで、本機の操作はできません。

お手入れについて

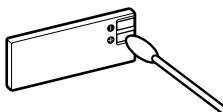
表面や表示窓が汚れたときは

水気を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面をいためますので使わないでください。

ヘッドホンおよびリモコンのプラグのお手入れについて

プラグが汚れていると雑音や音飛びの原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、プラグをときどき柔らかい布でからぶきし、清潔に保ってください。

充電池の端子のお手入れについて

定期的に充電池の端子を綿棒や柔らかい布などできれいにしてください。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態で使うと、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき、冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、などです。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってから使ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口（☞87ページ）またはお買い上げ店、添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ポータブルミニディスクプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーの相談窓口（☞87ページ）またはお買い上げ店、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

形式
ミニディスクデジタルオーディオシステム

フォーマット
ミニディスクシステム、Hi-MDシステム

録音方式
磁界変調光学方式

再生読み取り方式
非接触光学読み取り（半導体レーザー使用）

録音再生時間
「1枚のディスクに録音できる時間は？」（☞78ページ）

回転数
約350 rpm～3,600 rpm（CLV）

エラー訂正方式
Hi-MD：
LDC (Long Distance Code)/BIS (Burst Indicator Subcode)
MD：
ACIRC (Advanced Cross Interleave Reed Solomon Code)

サンプリング周波数
44.1kHz

サンプリングレートコンバーター
光（デジタル）入力：32 kHz/44.1 kHz/48 kHz

対応オーディオフォーマット
録音：
リニアPCM（44.1 kHz/16ビット）
ATRAC3plus（Hi-SP、Hi-LP）
ATRAC3（LP2、LP4）
ATRAC（SP）
再生：
リニアPCM
ATRAC3plus
ATRAC3
ATRAC
MP3（MPEG-1 Audio Layer-3、サンプリング周波数32/44.1/48 kHz、ビットレート32-320 kbps（固定/可変ビットレート））

ATRACとはAdaptive TRansform Acoustic Codingの略です。

変調方式
Hi-MD：
1-7RLL (Run Length Limited)/PRML (Partial Response Maximum Likelihood)
MD:
EFM (Eight to Fourteen Modulation)

周波数特性（光デジタル・アナログ入力時）
20～20,000 Hz ± 3 dB

入力端子*
MIC (PLUG IN POWER)：ステレオミニジャック（最小入力レベル 0.13 mV）
LINE IN (OPT)：アナログ時　ステレオミニジャック（最小入力レベル 49 mV）、光デジタル時　光ミニジャック

出力端子
🎧/LINE OUT：ステレオミニジャック（専用リモコンジャック）／規定出力 194 mV（10 kΩ）

実用最大出力（DC時）**
ヘッドホン：5 mW + 5 mW（16 Ω）

電源
充電式リチウムイオン電池LIP-4WM、3.7 V、370 mAh、Li-ion　1個
ACパワーアダプター、DC 5V、
AC 100～240 V、50/60 Hz

動作温度
＋5℃～＋35℃

電池持続時間**
「充電池の使用可能時間」（☞17ページ）

本体寸法
約83.8 × 84.4 × 14.7 mm
（幅/高さ/奥行き、突起部含まず）

最大外形寸法**
約87.7 × 87.7 × 17.3 mm
（幅/高さ/奥行き）

質量
約96 g（本体のみ）
約106 g（充電式電池含む）

* 光デジタル入力とアナログ入力は兼用ジャック
** JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

本機は、ドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

製造年は、本体のふたを開けた内側に表示されています。

知っておくと便利です

ここではポータブルMDレコーダーをお使いになる際に知っておくと便利な情報を、Q&A形式で簡単に説明します。

Hi-MD/MD一般

Q1: Hi-MDとは？

A1: Hi-MDとは、新しいミニディスクのフォーマットです。従来のミニディスクから、ディスクの記録方式を変え、さらに長時間の録音が可能になりました。また、パソコンの外部機器として、音楽データ以外のデータ（例えば、テキストデータや画像データ）もミニディスクに記憶することができます。

Q2: ATRACとは？

A2: ATRAC（Adaptive TRansform Acoustic Coding）は、ATRAC（これまでのMDフォーマットのSPモード）、ATRAC3（LP2/LP4モード）、およびATRAC3plus（Hi-SP/Hi-LPモード）の総称で、高音質と高圧縮を両立させた音声圧縮技術です。ATRAC3では音声データをCDの約10分の1に圧縮でき、ATRAC3plusでは約20分の1に圧縮できます。

Q3: Hi-MDモードとMDモードとは？

A3: 本機は「Hi-MD」と「MD」の2つのモードを持ち、挿入されたディスクによって、モードが切り替わります。

ディスク		モード
Hi-MD規格専用1GBディスク		Hi-MD
60/74/80分ディスク	ブランクディスク	メニューの「Disc Mode」（☞58ページ）の設定に従います。
	Hi-MDモードで録音された音楽が入っている	Hi-MD
	MDモードで録音された音楽が入っている	MD

Q4: リニアPCMとは？

A4: デジタル圧縮しない音声記録方式です。この方式で録音すると、CDと同じ音質を楽しむことができます。

Q5:「システムファイル」とは？

A5: 音声以外の情報を記録するミニディスク上の領域です。
どの曲が何曲目で、ディスクのどこにあるかなどを記録しています。ミニディスクが本だとすると、索引や目次にあたります。
録音やトラックマークの記録・削除、曲の移動などの際、ミニディスクレコーダーはシステムファイルの書き換え作業を行います（この間は画面に「SystemFILE WRITING」が表示されます）。この間はディスクへの記録をしていますので、衝撃を与えたり、電源を抜いたりしないでください。記録が正しく行われないばかりか、ディスクの内容が失われることがあります。

Q6: サンプリングレートとは？

A6: サンプリングレートとは1秒間の音声をどれだけの量のデジタル信号にするかを表す数値です。
一般に数値が大きいほど高音質になります。サンプリングレートの異なる機器同士では、通常デジタル信号によるダビングはできません。これを可能にするのが、サンプリングレートコンバーターです。コンバーターは、デジタル信号をほかのサンプリングレート用のデジタル信号に変換します。本機はこのコンバーターを内蔵しています。光デジタル入力端子に入ってきたサンプリングレートの異なる信号（BSチューナー :32kHz, DAT:48kHzなど）は、コンバーターによって、MDのサンプリングレート（44.1kHz）に変換されて録音されます。

Q7: ATRAC/ATRAC3用DSP TYPE-S

A7: ソニーのハイスペックMDデッキに搭載されているATRAC用DSP TYPE-Sを採用しています。MDLPモードや132/105/66 kbpsで転送された曲の再生時に高音質で楽しめます。また、このDSPにはATRAC用DSP TYPE-Rの演算能力も継承されていますので、TYPE-SまたはTYPE-R対応機器でSPステレオ録音された曲の再生にも優れています。

Q8: Net MDとは？

A8: パソコン内に入っている音楽データを、USBケーブルを介してミニディスクに録音できる規格です。
従来のMDが録音できる音源の種類は、マイクやアナログ入力からのアナログ音源または、音楽CDなどからのPCM音源のみだったため、パソコンからの録音は不可能でした。しかし、「OpenMG」[1]と「MagicGate」[2]という著作権保護技術に基づいた音楽管理ソフト（SonicStageなど）を使って「ATRAC」[3]、「ATRAC3」[3]という音楽データの形式に変換することにより、MDへの録音が可能となりました。

1) パソコンに取り込まれたCDなどの音楽データを管理するための著作権技術

2) パソコンとNet MD機器の間で、お互いが著作権保護に対応しているかの認証を行う技術

3) 従来のMDの録音時に変換される形式

録音

Q1: MDでは何が録音できるの？

A1: アナログ入力とデジタル入力、両方の録音ができます。本機ではアナログ入力、デジタル入力にLINE IN (OPT)ジャック（パソコンからの入力ではUSB接続用ジャック）を使います。

アナログ入力

録音元	出力端子	形状	使うケーブル[1]
テレビ、ラジオ、カセット、CD、MD、ラジカセ、ステレオコンポ、アンプなど	LINE OUT AUX OUT REC OUTなど	ピンジャック L R	ピンプラグ↔ステレオミニプラグ（RK-G129など）
		ステレオミニジャック	ステレオミニプラグ↔ステレオミニプラグ（RK-G136など）
	HEADPHONES Phones 🎧など[2]	ステレオミニジャック[3] (Headphones)	ステレオミニプラグ↔ステレオミニプラグ（RK-G136など）
マイク	—	—	マイク：ステレオミニプラグ（ECM-MS907など）

[1] 詳しくは「別売りアクセサリー」（☞12ページ）をご覧ください。

[2] 録音レベルを調節してください（☞52ページ）。

[3] ヘッドホンジャックの穴径が3.5mmより太いとき（穴径6.3mm）は、プラグアダプター PC-234SまたはPC-234HSをお使いください。

デジタル入力

録音元	出力端子	形状	使うケーブル[1]
CD、MD、DAT、DVD、BS、CS放送など	OPTICAL OUT DIGITAL OUT など[2]	光角型ジャック	光角型プラグ↔光ミニプラグ（POC-15ABなど）
		光ミニジャック	光ミニプラグ↔光ミニプラグ（POC-15Bなど）
パソコン[3]	USB	USB	USBケーブル（Hi-MD/Net MD機器に付属）

[1] 詳しくは「別売りアクセサリー」（☞12ページ）をご覧ください。

[2] 同軸（COAXIAL）の出力端子からは録音できません。

[3] Hi-MD/Net MD対応機器でのみ録音できます。

Q2: デジタル録音とアナログ録音は何が違うの？

A2: デジタル録音（光デジタル入力）とアナログ録音（アナログ入力）では次のような違いがあります。

入力の種類 / 相違点	光デジタル入力	アナログ入力
録音元から送られる信号	デジタル信号	アナログ信号 CDなどデジタル方式のものを録音元としても、本機にはアナログ信号として送られる。
トラックマーク（曲番）のつきかた*	トラックマーク（曲番）のつきかた* • 音源がCDやMDの場合、録音元と同じ場所に自動的につく。 • 音源がCDやMD以外の場合、2秒以上の無音（☞80ページ）や小さな音が続いた場所につく。 • 録音を一時停止したところで自動的につく。（シンクロ録音中は3秒以上の無音が続いた場合）	• 2秒以上の無音（☞80ページ）や小さな音が続いた場所につく。 • 録音を一時停止したところで自動的につく。
録音される音の大きさ	録音元と同じ。 手動でも調節できます（デジタルRECレベルコントロール）（「手動で録音レベルを調節する」☞52ページ）。	設定により自動調節されますが、手動でも調節できます（「手動で録音レベルを調節する」☞52ページ）。

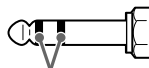
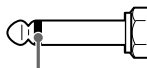
* 不要なトラックマークがついた場合、録音後に消してください（☞48ページ）。

ご注意

次のような場合、録音元と同じ位置にトラックマークが記録されないことがあります。

- 一部のCDプレーヤーやマルチディスクプレーヤーから、光デジタル入力で録音する場合
- CDやMDソフトをプログラム演奏などにして光デジタル入力で録音する場合（このような場合には、録音元を通常の再生状態にしてミニディスクに録音してください。）
- BS、CS放送の番組を光デジタル入力で録音する場合

Q3: ステレオプラグとモノラルプラグの見分けかたは？

A3: ステレオプラグ：絶縁の帯が2つ　　モノラルプラグ：絶縁の帯が1つ

Q4: 1枚のディスクに録音できる時間は？

A4: ディスクの種類と録音／転送モードによって録音時間は異なります。次の表で録音時間を確認してください。

Hi-MDモードでお使いの場合

本機で録音する場合		**録音時間***			
コーデック/ビットレート	本機での録音モード	Hi-MD規格専用1GBディスク	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
リニアPCM/1.4Mbps	PCM	約1時間34分	約28分	約26分	約21分
ATRAC					
ATRAC3plus/256kbps	Hi-SP	約7時間55分	約2時間20分	約2時間10分	約1時間40分
ATRAC3plus/64kbps	Hi-LP	約34時間	約10時間10分	約9時間20分	約7時間40分

パソコンから転送する場合	**録音時間***			
コーデック/ビットレート	Hi-MD規格専用1GBディスク	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
リニアPCM/1.4 Mbps	約1時間34分	約28分	約26分	約21分
ATRAC				
ATRAC3plus/352 kbps	約5時間30分	約1時間35分	約1時間30分	約1時間10分
ATRAC3plus/256 kbps	約7時間55分	約2時間20分	約2時間10分	約1時間40分
ATRAC3plus/192 kbps	約11時間	約3時間10分	約3時間	約2時間20分
ATRAC3plus/64 kbps	約34時間	約10時間10分	約9時間20分	約7時間40分
ATRAC3plus/48 kbps	約45時間	約13時間30分	約12時間30分	約10時間
ATRAC3/132 kbps	約16時間30分	約4時間50分	約4時間30分	約3時間40分
ATRAC3/105 kbps	約20時間40分	約6時間10分	約5時間40分	約4時間40分
ATRAC3/66 kbps	約32時間40分	約9時間50分	約9時間	約7時間20分
MP3**/128 kbps	約17時間	約5時間	約4時間30分	約3時間30分

MDモードでお使いの場合

本機で録音する場合		**録音時間***		
コーデック/ビットレート	本機での録音モード	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
ATRAC				
ATRAC/292kbps	SP	約1時間20分	約1時間14分	約1時間
ATRAC3/132kbps	LP2	約2時間40分	約2時間28分	約2時間
ATRAC3/66kbps	LP4	約5時間20分	約4時間56分	約4時間

パソコンから転送する場合	録音時間*		
コーデック/ビットレート	80分ディスク	74分ディスク	60分ディスク
ATRAC			
ステレオ転送ATRAC/292kbps	約1時間20分	約1時間14分	約1時間
ATRAC3/132、105kbps	約2時間40分	約2時間28分	約2時間
ATRAC3/66kbps	約5時間20分	約4時間56分	約4時間

* 1曲4分の曲を転送した場合

** MPEG-1 Audio Layer-3/サンプリング周波数44.1kHz/固定ビットレートのファイル形式

Q5: 再生できる機器は？

A5: 本機で録音したディスク、またはパソコンから転送したディスクの場合、ディスクの種類とフォーマットによって再生できる機器が異なります。次の表で確認してください。

ディスク	フォーマット	再生できる機器		
		Hi-MD対応機器 [1]	MDLP対応機器 [2]	MDLP非対応機器
Hi-MD規格専用 1GBディスク	Hi-MD	○	×	×
60/74/80分 ディスク	Hi-MD	○	×	×
	MDLP	○	○	×
	MD	○	○	○

1) Hi-MD AUDIO または Hi-MD ロゴのある機器

2) MDLP または MDLP ロゴのみある機器

Q6: 光デジタル出力ジャックがない機器から録音できますか？

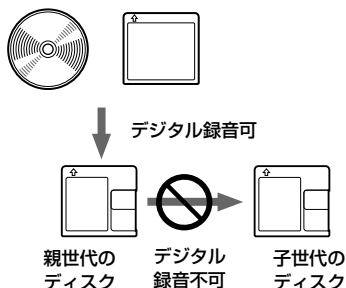
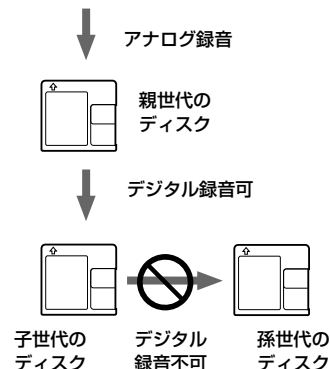
A6: デジタル録音はできませんが、アナログ出力ジャック（LINE OUT/AUX OUT/REC OUT/CD OUT ジャック、ヘッドホンジャックなど）を使えば、アナログ録音はできます。

ヘッドホンジャックから録音する場合、音が歪まないように、つないだ先の機器の音量を調節してください。

録音レベルの調節のしかたについて詳しくは、「手動で録音レベルを調節する」（☞52ページ）をご覧ください。

Q7: デジタル録音をしたディスクをほかのディスクに録音できますか？

A7: CDや再生専用MDなどの市販ソフトから、光デジタル入力端子を使って録音したミニディスクは、さらにほかの機器でデジタル録音することはできません

本機は、音楽ソフトの著作権を保護するため、「シリアルコピーマネジメントシステム（SCMS）」に準拠しています。光デジタル入力で録音したミニディスクを別のミニディスクに録音するには、アナログ入力（LINE IN）を使ってください。

ご注意

著作権を保護するためのコピーコントロール信号を除去、改変してコピーを作成することは、個人として楽しむ目的であっても法律で禁止されています。

Q8: MDの曲番はどうやってつくの？

A8: CDなど曲番のついたメディアから録音した場合、レコーダーは次のような条件で 曲番をつけます。
デジタル入力からの録音→録音元のCDなどと同じところにつく。
アナログ入力からの録音→2秒間以上無音状態が続き、その後音声が入ってきたときにつく。
なお、CDで「–0:03」から新しい曲番が始まっているときは、0:00になった時点でMDに新しい曲番がつきます。

Q9: 無音レベルとは？

A9: 本機ではアナログ入力時は約4.8 mV（Manual REC時を除く）、光デジタル入力時はフルビットを0 dBとした場合、約–89 dB以下の入力レベルです。

Q10: 曲数も録音時間も余裕があるのに「TRACK FULL」表示が出て、録音が止まるのはなぜ？

A10: システム上の制約です。
同じディスクで録音、消去を繰り返すと、1曲のデータが連続して記録されず、空いているところに分割して記録されることがあります。ミニディスクは、このような場合でも離れたデータをすばやく探し出し、順に再生します。ただし、分割したそれぞれのデータは曲の区切り（1曲）と同じ扱いになり、データが全部で2,047個（Hi-MDモードでお使いのディスクの場合）または254個（MDモードでお使いのディスクの場合）になると、録音できなくなります。さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音してください。

再生

Q1: 編集した曲を再生しながら早送り、早戻しすると、音がとぎれるのはなぜ？

A1: システム上の制約です。
再生しながら早送り、早戻しするときは通常より高速で再生するため、短い曲がディスク上のいろいろなところに点在していると、探すのに時間がかかり、音がとぎれることがあります。

編集

Q1: トラックマーク（曲番）が消せないのはなぜ？

A1: 以下の場合はシステム上の制約により、トラックマークが消せません。
- つなごうとする曲のデータがディスク上に分散し、それぞれのデータの長さ*が短いとき、その曲のトラックマーク（曲番）を消して前の曲とつなぐことができない場合があります。

  * データの長さが次のような場合、曲をつなぐことができないことがあります。
  Hi-MDモード：リニアPCMで9秒以下、Hi-SPで8秒以下、Hi-LPで32秒以下の場合
  MDモード：SPで12秒以下、LP2で24秒以下、LP4で48秒以下の場合
- 異なる録音モード（例：リニアPCMとHi-SPなど）で録音された曲の間のトラックマークは消すことができません。

Q2: 曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えないのはなぜ？

A2: システム上の制約です。
ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒以下（SP録音時）、24秒以下（LP2録音時）、または48秒以下（LP4録音時）の部分は無視します。このため短い曲を何曲消しても録音できる残り時間が増えないことがあります。

Q3: ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間（60分、74分、80分）に一致しないのはなぜ？

A3: システム上の制約です。
通常、録音はSP録音時で約2秒、LP2録音時で約4秒、LP4録音時で約8秒を最小単位としてディスクに記録します。録音を止めたところでは、記録の最後の部分が実際には2秒（4秒または8秒）に満たない場合でも約2秒（4秒または8秒）分のスペースを使います。また、録音を止めた後再び録音を始めるときには、録音を始めたところで約2秒（4秒または8秒）分のスペースを空けて記録を始めます。これは、録音を始めるときに誤って前の曲を消さないためです。このため、実際に録音できる時間は録音を止めるたびに、最大録音可能時間よりも最大で6秒（12秒または24秒）ずつ短くなります。

Q4: グループ名はどうやって記録される？（MDモードの場合のみ）

A4: MDモードでお使いの場合、グループ情報は「ディスク名」としてディスク名の記録領域に自動的に記録されます。具体的には次のような文字列が書き込まれます。

0;Favorites//2-4;Rock//6-9;Pops//

① ② ③

① ディスク名
② 2曲めから4曲めのグループ名：「Rock」
③ 6曲めから9曲めのグループ名：「Pops」

グループがあるディスクをグループ機能未対応機器で読み込むと、前記の文字列がそのまま「ディスク名」として表示されます。
本機では、通常はこの文字列は表示されませんが、ディスク名の編集中にT MARKボタンを2秒以上押すと、この文字列を表示することができ、グループ名を直接編集することができます。

Q5: 新しいグループを作れないのはなぜ？（MDモードの場合のみ）

A5: ディスク全体の入力文字数の合計が制限を超えたためかもしれません（システム上の制約）。
A4のとおり、グループ情報はディスク名の領域を使って行われます。ディスク名とグループ名、曲名は同じ領域に記録され、最大文字数はすべての名前の合計で約1,700文字です。この文字数を超えた場合、グループ録音をしても新しいグループは作成されません。

索引

あ行

か行

さ行

た行

は行

ま行

ら行

アルファベット、数字

お問合せ窓口のご案内

本機についてご不明な点や**技術的なご質問、故障と思われるときのご相談**については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには ⇨ パーソナルオーディオ・カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/support-pa/)
  本機に関する最新サポート情報や、よくあるお問合せとその回答をご案内しています。
- **電話・FAXでのお問い合わせは ⇨ 下記の相談窓口へ**
  (下記電話・FAX番号)
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。
    ◆ セット本体に関するご質問時:
    - 型名: MZ-RH1
    - 製造(シリアル)番号:別紙の「カスタマー登録のお願い」をご参照ください
    - ご相談内容:できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆ 付属のソフトウェアに関連するご質問時:
    - ソフトウェアのバージョン:
    - お使いのパソコン(メーカー名/型名):
    - パソコンにインストールされているOS名:
    - メモリ容量/ハードディスクの空き容量:
    - CD-ROMドライブの型名/種類(外付けまたは内蔵):
    - エラーメッセージ(エラーメッセージが表示された場合):

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「302」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

ポータブルミニディスクレコーダー
MZ-RH1
T18-1001A-3

ここに保証書が入ります

Complete the film by inserting the warranty at this position.

在此處插入保證書完成菲林。

在此位置插入保证书以完成胶片。

Printed in Malaysia

* 2 6 6 9 0 8 4 0 5 * (1)